４　個別調査票による死亡事例の調査結果

(1) 虐待による死亡の状況

こども家庭庁が、都道府県等に対する調査により把握した、令和５年４月から令和６年３月までの１年間（第21次報告の対象期間）に発生、又は表面化した児童虐待による死亡事例は、心中以外の虐待死事例では 44 例（48 人)、心中による虐待死事例（未遂により親は生存したがこどもは死亡したものを含む）では 12 例（17 人）であり、総数は56例（65人）であった。また、第21次報告においても引き続き、都道府県等が虐待による死亡と断定できないと報告があった事例について、本委員会にて検証を行い、虐待による死亡事例として取り扱うと判断された事例（以下「疑義事例」という。）についても合わせて計上することとした（疑義事例は、各表において(　)で内数として示す)。

また、第１次報告から第21次報告までの期間中に把握した児童虐待による死亡事例数及び死亡人数は、心中以外の虐待死事例では1,037例（1,093人)、心中による虐待死事例では469例（652人）であった。

表１　死亡事例数及び人数（心中以外の虐待死）[注1)] [注2)]

区分	第1次	第2次	第3次	第4次	第5次	第6次	第7次
例数	24	48	51	52	73	64	47
人数	25	50	56	61	78	67	49

区分	第8次	第9次	第10次	第11次	第12次	第13次	第14次
例数	45	56	49	36	43	48(8)	49(18)
人数	51	58	51	36	44	52(8)	49(18)

区分	第15次	第16次	第17次	第18次	第19次	第20次	第21次
例数	50(23)	51(22)	56(35)	47(15)	50(21)	54(26)	44(18)
人数	52(23)	54(22)	57(35)	49(15)	50(21)	56(27)	48(18)

区分	総数
例数	1,037(186)
人数	1,093(187)

注1) 第１次報告は、対象期間が平成15年７月１日から同年12月末日（半年間)、第５次報告は平成19年１月１日から平成20年３月31日まで（１年３か月間）と、対象期間（月間）が他の報告と異なる。
注2) (　) 内は、都道府県等が虐待による死亡と断定できないと報告のあった事例について、「児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会」にて検証すべきと判断された疑義事例数（以下、同様の取扱いとする。）

表 2　死亡事例数及び人数（心中による虐待死）[注3)]

区分	第1次	第2次	第3次	第4次	第5次	第6次	第7次
例数	－	5	19	48	42	43	30
人数	－	8	30	65	64	61	39

区分	第8次	第9次	第 10 次	第 11 次	第 12 次	第 13 次	第 14 次
例数	37	29	29	27	21	24(0)	18(2)
人数	47	41	39	33	27	32(0)	28(3)

区分	第 15 次	第 16 次	第 17 次	第 18 次	第 19 次	第 20 次	第 21 次
例数	8(0)	13(2)	16(3)	19(0)	18(0)	11(0)	12(1)
人数	13(0)	19(3)	21(6)	28(0)	24(0)	16(0)	17(1)

区分	総数
例数	469(8)
人数	652(13)

（2）死亡したこどもの年齢

死亡時点におけるこどもの年齢について、心中以外の虐待死事例では、「０歳」が 33 人（68.8%）で最も多く、３歳未満は 38 人（79.2%）であった。第 1 次報告から第 21 次報告までの推移をみても、「０歳」が最も多い結果が続いている。

また、心中による虐待死事例では、３歳未満は５人(29.4%）であった。

さらに、死亡した０歳を月齢別にみると、心中以外の虐待死事例では、月齢「０か月」が 18 人（54.4%）であり、０歳児において最も高い割合を占めた。

注 3) 表の中で「―」かつ網掛けの箇所は調査が実施されていない事項。（以下同様の取扱いとする。）

表 3　死亡時点のこどもの年齢（心中以外の虐待死）

区分		第1次から第 20 次まで	第 21 次	総数（第1次から第 21 次まで）
0 歳	人数	504(86)	33(13)	537(99)
	構成割合	48.2%	68.8%	49.1%
1 歳	人数	114(18)	3(0)	117(18)
	構成割合	10.9%	6.3%	10.7%
2 歳	人数	78(12)	2(1)	80(13)
	構成割合	7.5%	4.2%	7.3%
3 歳	人数	98(11)	3(2)	101(13)
	構成割合	9.4%	6.3%	9.2%
4 歳	人数	53(10)	3(1)	56(11)
	構成割合	5.1%	6.3%	5.1%
5 歳	人数	38(2)	2(1)	40(3)
	構成割合	3.6%	4.2%	3.7%
6 歳	人数	22(3)	1(0)	23(3)
	構成割合	2.1%	2.1%	2.1%
7 歳	人数	19(0)	0(0)	19(0)
	構成割合	1.8%	0.0%	1.7%
8 歳	人数	7(0)	0(0)	7(0)
	構成割合	0.7%	0.0%	0.6%
9 歳	人数	12(1)	1(0)	13(1)
	構成割合	1.1%	2.1%	1.2%
10 歳	人数	6(0)	0(0)	6(0)
	構成割合	0.6%	0.0%	0.5%
11 歳	人数	9(1)	0(0)	9(1)
	構成割合	0.9%	0.0%	0.8%
12 歳	人数	4(0)	0(0)	4(0)
	構成割合	0.4%	0.0%	0.4%
13 歳	人数	6(0)	0(0)	6(0)
	構成割合	0.6%	0.0%	0.5%
14 歳	人数	9(4)	0(0)	9(4)
	構成割合	0.9%	0.0%	0.8%
15 歳	人数	5(2)	0(0)	5(2)
	構成割合	0.5%	0.0%	0.5%
16 歳	人数	7(0)	0(0)	7(0)
	構成割合	0.7%	0.0%	0.6%
17 歳	人数	4(1)	0(0)	4(1)
	構成割合	0.4%	0.0%	0.4%
不明	人数	50(18)	0(0)	50(18)
	構成割合	4.8%	0.0%	4.6%
計	人数	1,045(169)	48(18)	1,093(187)
	構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

表４　死亡時点のこどもの年齢（心中による虐待死）

区分		第2次から第 20 次まで	第 21 次	総数（第2次から第 21 次まで）
0 歳	人数	77(3)	2(0)	79(3)
	構成割合	12.1%	11.8%	12.1%
1 歳	人数	43(1)	1(0)	44(1)
	構成割合	6.8%	5.9%	6.7%
2 歳	人数	45(1)	2(0)	47(1)
	構成割合	7.1%	11.8%	7.2%
3 歳	人数	49(0)	1(0)	50(0)
	構成割合	7.7%	5.9%	7.7%
4 歳	人数	45(0)	2(0)	47(0)
	構成割合	7.1%	11.8%	7.2%
5 歳	人数	53(0)	3(0)	56(0)
	構成割合	8.3%	17.6%	8.6%
6 歳	人数	50(1)	0(0)	50(1)
	構成割合	7.9%	0.0%	7.7%
7 歳	人数	40(0)	1(0)	41(0)
	構成割合	6.3%	5.9%	6.3%
8 歳	人数	44(0)	3(0)	47(0)
	構成割合	6.9%	17.6%	7.2%
9 歳	人数	50(2)	0(0)	50(2)
	構成割合	7.9%	0.0%	7.7%
10 歳	人数	34(0)	0(0)	34(0)
	構成割合	5.4%	0.0%	5.2%
11 歳	人数	27(0)	1(0)	28(0)
	構成割合	4.3%	5.9%	4.3%
12 歳	人数	22(0)	0(0)	22(0)
	構成割合	3.5%	0.0%	3.4%
13 歳	人数	16(2)	0(0)	16(2)
	構成割合	2.5%	0.0%	2.5%
14 歳	人数	12(0)	0(0)	12(0)
	構成割合	1.9%	0.0%	1.8%
15 歳	人数	13(1)	0(0)	13(1)
	構成割合	2.0%	0.0%	2.0%
16 歳	人数	5(0)	0(0)	5(0)
	構成割合	0.8%	0.0%	0.8%
17 歳	人数	5(0)	0(0)	5(0)
	構成割合	0.8%	0.0%	0.8%
不明	人数	5(1)	1(1)	6(2)
	構成割合	0.8%	5.9%	0.9%
計	人数	635(12)	17(1)	652(13)
	構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

表５　死亡した０歳児の月齢（心中以外の虐待死）

区分	第5次から第 20 次まで		第 21 次		総数（第5次から第 21 次まで）	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
0か月	194(28)	46.3%	18(4)	54.5%	212(32)	46.9%
1か月	27(11)	6.4%	1(1)	3.0%	28(12)	6.2%
2か月	40(12)	9.5%	2(2)	6.1%	42(14)	9.3%
3か月	24(7)	5.7%	0(0)	0.0%	24(7)	5.3%
4か月	25(5)	6.0%	1(1)	3.0%	26(6)	5.8%
5か月	21(5)	5.0%	2(1)	6.1%	23(6)	5.1%
6か月	21(5)	5.0%	1(1)	3.0%	22(6)	4.9%
7か月	20(6)	4.8%	0(0)	0.0%	20(6)	4.4%
8か月	11(2)	2.6%	0(0)	0.0%	11(2)	2.4%
9か月	11(0)	2.6%	1(1)	3.0%	12(1)	2.7%
10 か月	11(3)	2.6%	2(2)	6.1%	13(5)	2.9%
11 か月	13(2)	3.1%	1(0)	3.0%	14(2)	3.1%
月齢不明	1(0)	0.2%	4(0)	12.1%	5(0)	1.1%
計	419(86)	100.0%	33 (13)	100.0%	452(99)	100.0%

表６　死亡した０歳児の月齢（心中による虐待死）

区分	第5次から第 20 次まで		第 21 次		総数（第5次から第 21 次まで）	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
0か月	7(0)	11.1%	1(0)	50.0%	8(0)	12.3%
1か月	5(0)	7.9%	0(0)	0.0%	5(0)	7.7%
2か月	5(1)	7.9%	0(0)	0.0%	5(1)	7.7%
3か月	2(0)	3.2%	0(0)	0.0%	2(0)	3.1%
4か月	7(1)	11.1%	1(0)	50.0%	8(1)	12.3%
5か月	4(0)	6.3%	0(0)	0.0%	4(0)	6.2%
6か月	4(0)	6.3%	0(0)	0.0%	4(0)	6.2%
7か月	9(0)	14.3%	0(0)	0.0%	9(0)	13.8%
8か月	7(0)	11.1%	0(0)	0.0%	7(0)	10.8%
9か月	5(0)	7.9%	0(0)	0.0%	5(0)	7.7%
10 か月	4(0)	6.3%	0(0)	0.0%	4(0)	6.2%
11 か月	4(1)	6.3%	0(0)	0.0%	4(1)	6.2%
月齢不明	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
計	63(3)	100.0%	2 (0)	100.0%	65(3)	100.0%

（3）虐待の類型と加害の状況

① 死因となった虐待の類型

こどもの死因となった虐待の類型について、心中以外の虐待死事例においては、「ネグレクト」が 25 人（有効割合[注4] 54.3%）、「身体的虐待」が 21 人（同 45.7%）であった。また、保護者が見ていないときに窓やベランダ等からの転落によって死亡した事例については、「ネグレクト」に分類し集計している。

表 7　死因となった虐待の類型（心中以外の虐待死）

区分	第 1 次から第 20 次まで			第 21 次			総数（第 1 次から第 21 次まで）		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
身体的虐待	593(33)	56.7%	64.8%	21(6)	43.8%	45.7%	614(39)	56.2%	63.9%
ネグレクト	318(66)	30.4%	34.8%	25(11)	52.1%	54.3%	343(77)	31.4%	35.7%
心理的虐待	3(2)	0.3%	0.3%	0(0)	0.0%	0.0%	3(2)	0.3%	0.3%
性的虐待 ※1	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
その他 ※2	1(0)	0.1%	0.1%	―	―	―	1(0)	0.1%	0.1%
小計	915(101)	87.6%	100.0%	46(17)	95.8%	100.0%	961(118)	87.9%	100.0%
不明	130(68)	12.4%		2(1)	4.2%		132(69)	12.1%	
計	1,045(169)	100.0%	―	48(18)	100.0%	―	1,093(187)	100.0%	―

※1　第 18 次報告までは「その他」としていたが、第 19 次報告からは「性的虐待」と項目名を変更した。
※2　第1次報告から第 18 次報告まで調査。累計母数は 939 人

表 8　死因となった虐待の類型「ネグレクト」のうち「転落死」した人数（心中以外の虐待死）

	人数
転落死	1(0)

【参考事例】

＜死因となった虐待の類型がネグレクトの事例＞

○３歳児（ネグレクトにより死亡）
３日前から下痢と血便などの体調不良が続いていたが、未受診のまま死亡。

○３歳児（ネグレクトにより死亡）
実父と入浴し、実父が本児を湯船に残し目を離している間に溺死。

○０歳児（ネグレクトにより死亡）
父母外出中に本児が仰向けになった拍子に、臀部にあったシートが移動して顔に被さったことによる窒息死。

＜転落死の事例＞

○４歳児（ネグレクトによる転落で死亡）
家族が目を話した隙に、ベランダに置かれたエアコンの室外機に登って転落。

注4）「有効割合」とは、「不明」「未記入」とした回答を除いた数を合計数として算出した割合をいう。（以下、同様の取扱いとする）

② 直接の死因

ア 直接の死因

こどもの直接の死因について、心中以外の虐待死事例では、「頭部外傷」が６人（有効割合 24.0%）と多く、心中による虐待死事例では、「頸部絞扼による窒息」が６人（同 50.0%）であった。

表 9　直接の死因（心中以外の虐待死）

区分	第5次から第 20次まで			第 21 次			総数（第5次から第 21 次まで）		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
頭部外傷	166(20)	19.5%	25.2%	6(3)	12.5%	24.0%	172(23)	19.1%	25.1%
胸部外傷	6(0)	0.7%	0.9%	0(0)	0.0%	0.0%	6(0)	0.7%	0.9%
腹部外傷	19(4)	2.2%	2.9%	1(0)	2.1%	4.0%	20(4)	2.2%	2.9%
外傷性ショック	13(1)	1.5%	2.0%	1(0)	2.1%	4.0%	14(1)	1.6%	2.0%
頸部絞扼による窒息	67(0)	7.9%	10.2%	0(0)	0.0%	0.0%	67(0)	7.4%	9.8%
頸部絞扼以外による窒息	97(11)	11.4%	14.7%	4(0)	8.3%	16.0%	101(11)	11.2%	14.7%
溺水	44(5)	5.2%	6.7%	1(0)	2.1%	4.0%	45(5)	5.0%	6.6%
熱傷	2(0)	0.2%	0.3%	0(0)	0.0%	0.0%	2(0)	0.2%	0.3%
車中放置による熱中症・脱水	25(3)	2.9%	3.8%	1(1)	2.1%	4.0%	26(4)	2.9%	3.8%
中毒（火災によるものを除く）	2(1)	0.2%	0.3%	0(0)	0.0%	0.0%	2(1)	0.2%	0.3%
出血性ショック	15(2)	1.8%	2.3%	0(0)	0.0%	0.0%	15(2)	1.7%	2.2%
低栄養による衰弱	31(2)	3.6%	4.7%	0(0)	0.0%	0.0%	31(2)	3.4%	4.5%
脱水	4(0)	0.5%	0.6%	0(0)	0.0%	0.0%	4(0)	0.4%	0.6%
凍死	2(0)	0.2%	0.3%	0(0)	0.0%	0.0%	2(0)	0.2%	0.3%
火災による熱傷・一酸化炭素中毒	40(1)	4.7%	6.1%	0(0)	0.0%	0.0%	40(1)	4.4%	5.8%
病死	13(5)	1.5%	2.0%	4(4)	8.3%	16.0%	17(9)	1.9%	2.5%
転落死 ※1	4(3)	8.0%	10.5%	－	－	－	4(3)	8.0%	10.5%
自死 ※2	1(1)	0.6%	0.8%	0(0)	0.0%	0.0%	1(1)	0.6%	1.0%
その他	109(38)	12.8%	16.5%	7(4)	14.6%	28.0%	116(42)	12.9%	16.9%
小計	660(97)	77.4%	100.0%	25(12)	52.1%	100.0%	685(109)	76.0%	100.0%
不明	193(72)	22.6%		23(6)	47.9%		216(78)	24.0%	
計	853(169)	100.0%	―	48(18)	100.0%	―	901(187)	100.0%	―

※1　第 19 次報告のみの項目　母数は 50 人

※2　第 19 次報告より追加した項目　累計母数は 154 人

【参考事例】

＜車中放置による熱中症・脱水により死亡した事例＞

〇〇歳児（ネグレクトで死亡）

家族が商業施設の駐車場に止めた車の中にいることに気が付かずに買い物に行き、本児はその後、心肺停止の状況で発見。

表 10　直接の死因（心中による虐待死）

区分	第5次から第 20 次まで			第 21 次			総数（第5次から第 21 次まで）		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
頭部外傷	19(0)	3.6%	4.0%	0(0)	0.0%	0.0%	19(0)	3.5%	3.9%
胸部外傷	12(0)	2.3%	2.5%	0(0)	0.0%	0.0%	12(0)	2.2%	2.4%
腹部外傷	7(0)	1.3%	1.5%	0(0)	0.0%	0.0%	7(0)	1.3%	1.4%
外傷性ショック	9(0)	1.7%	1.9%	1(0)	5.9%	8.3%	10(0)	1.8%	2.0%
頚部絞扼による窒息	146(2)	27.4%	30.5%	6(0)	35.3%	50.0%	152(2)	27.7%	31.0%
頚部絞扼以外による窒息	7(0)	1.3%	1.5%	0(0)	0.0%	0.0%	7(0)	1.3%	1.4%
溺水	55(2)	10.3%	11.5%	0(0)	0.0%	0.0%	55(2)	10.0%	11.2%
熱傷	1(0)	0.2%	0.2%	0(0)	0.0%	0.0%	1(0)	0.2%	0.2%
車中放置による熱中症・脱水	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
中毒（火災によるものを除く）	80(0)	15.0%	16.7%	0(0)	0.0%	0.0%	80(0)	14.6%	16.3%
出血性ショック	37(1)	7.0%	7.7%	1(0)	5.9%	8.3%	38(1)	6.9%	7.7%
低栄養による衰弱	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
脱水	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
凍死	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
火災による熱傷・一酸化炭素中毒	65(0)	12.2%	13.6%	2(0)	11.8%	16.7%	67(0)	12.2%	13.6%
病死	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
転落死 ※1	2(0)	8.3%	8.7%	－	－	－	2(0)	8.3%	8.7%
自死 ※2	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
その他	39(2)	7.3%	8.1%	2(0)	11.8%	16.7%	41(2)	7.5%	8.4%
小計	479(7)	90.0%	100.0%	12(0)	70.6%	100.0%	491(7)	89.4%	100.0%
不明	53(5)	10.0%		5(1)	29.4%		58(6)	10.6%	
計	532(12)	100.0%	―	17(1)	100.0%	―	549(13)	100.0%	―

※1　第 19 次報告のみの項目　母数は 24 人

※2　第 19 次報告より追加した項目　累計母数は 57 人

イ　医師による AHT（虐待による乳幼児頭部外傷）（疑いを含む）の診断の有無

医師によるＡＨＴ（虐待による乳幼児頭部外傷）（疑いを含む）の診断は、心中以外の虐待死事例では「あり」が５人（有効割合 16.1%）であった。

表 11　医師によるＡＨＴ（虐待による乳幼児頭部外傷）（疑いを含む）の診断の有無

区分	心中以外の虐待死			心中による虐待死		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
なし	26(8)	54.2%	83.9%	7(0)	41.2%	100.0%
あり	5(2)	10.4%	16.1%	0(0)	0.0%	0.0%
小計	31(10)	64.6%	100.0%	7(0)	41.2%	100.0%
不明	17(8)	35.4%		10(1)	58.8%	
計	48(18)	100.0%	－	17(1)	100.0%	－

【参考事例】

＜医師によるＡＨＴ（虐待による乳幼児頭部外傷（疑いを含む）の診断があった事例＞
〇４歳女児（実母による身体的虐待で死亡）
実母が自宅のテーブルの上にいた本児の背中を殴り、転倒・落下させ、床に頭部をうちつけられたことにより死亡。

③ 主たる加害者

ア 主たる加害者

主たる加害者について、心中以外の虐待死事例では、「実母」が 19 人（39.6%）と最も多く、次いで「不明」が 16 人（33.3%）であった。

心中による虐待死事例では、「実母」が９人（52.9%）、「実父」７人（41.2%）であった。

総数をみても、心中以外による虐待死事例、心中による虐待死事例ともに加害者が「実母」である場合が最も多い。

表 12　主たる加害者（心中以外の虐待死）

区分		第1次から第 20 次まで		第 21 次		総数（第1次から第21次まで）	
		人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
実母		556(64)	53.2%	19(5)	39.6%	575(69)	52.6%
実父		156(17)	14.9%	1(1)	2.1%	157(18)	14.4%
養母		2(0)	0.2%	0(0)	0.0%	2(0)	0.2%
養父		9(0)	0.9%	1(0)	2.1%	10(0)	0.9%
継母		6(0)	0.6%	0(0)	0.0%	6(0)	0.5%
継父		13(1)	1.2%	0(0)	0.0%	13(1)	1.2%
実母の交際相手		42(4)	4.0%	1(0)	2.1%	43(4)	3.9%
母方祖母		7(0)	0.7%	0(0)	0.0%	7(0)	0.6%
母方祖父		1(0)	0.1%	0(0)	0.0%	1(0)	0.1%
父方祖母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
父方祖父		1(0)	0.1%	0(0)	0.0%	1(0)	0.1%
実母と	実父	89(23)	8.5%	7(6)	14.6%	96(29)	8.8%
	養父	12(1)	1.1%	0(0)	0.0%	12(1)	1.1%
	継父	4(1)	0.4%	0(0)	0.0%	4(1)	0.4%
	実母の交際相手	24(1)	2.3%	2(1)	4.2%	26(2)	2.4%
	母方祖母	1(1)	0.1%	0(0)	0.0%	1(1)	0.1%
	母方祖父母	1(0)	0.1%	0(0)	0.0%	1(0)	0.1%
	実父と父方祖母	1(0)	0.1%	0(0)	0.0%	1(0)	0.1%
	実父とその他	1(0)	0.1%	0(0)	0.0%	1(0)	0.1%
	実母の交際相手とその他	2(0)	0.2%	0(0)	0.0%	2(0)	0.2%
	その他	6(3)	0.6%	0(0)	0.0%	6(3)	0.5%
実父とその他		1(0)	0.1%	0(0)	0.0%	1(0)	0.1%
その他		27(7)	2.6%	1(0)	2.1%	28(7)	2.6%
不明		83(46)	7.8%	16(5)	33.3%	99(51)	9.0%
計		1,045(169)	100.0%	48(18)	100.0%	1,093(187)	100.0%

表 13　主たる加害者（心中による虐待死）

区分		第2次から第 20 次まで		第 21 次		総数（第2次から第21次まで）	
		人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
実母		433(5)	68.2%	9(0)	52.9%	442(5)	67.8%
実父		120(2)	18.9%	7(0)	41.2%	127(2)	19.5%
養母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
養父		2(0)	0.3%	0(0)	0.0%	2(0)	0.3%
継母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
継父		1(0)	0.2%	0(0)	0.0%	1(0)	0.2%
実母の交際相手		4(3)	0.6%	0(0)	0.0%	4(3)	0.6%
母方祖母		6(0)	0.9%	0(0)	0.0%	6(0)	0.9%
母方祖父		5(0)	0.8%	0(0)	0.0%	5(0)	0.8%
父方祖母		5(0)	0.8%	0(0)	0.0%	5(0)	0.8%
父方祖父		1(0)	0.2%	0(0)	0.0%	1(0)	0.2%
実母と	実父	27(0)	4.3%	0(0)	0.0%	27(0)	4.1%
	養父	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	継父	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	実母の交際相手	2(0)	0.3%	0(0)	0.0%	2(0)	0.3%
	母方祖母	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	母方祖父母	4(0)	0.6%	0(0)	0.0%	4(0)	0.6%
	実父と父方祖母	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	実父とその他	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	実母の交際相手とその他	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	その他	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
実父とその他		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
その他		3(0)	0.5%	0(0)	0.0%	3(0)	0.5%
不明		22(2)	3.5%	1(1)	5.9%	23(3)	3.5%
計		635(12)	100.0%	17(1)	100.0%	652(13)	100.0%

イ　主たる加害者とこどもの年齢

心中以外の虐待死事例における主たる加害者とこどもの年齢について、「０歳児」と「１歳以上～３歳未満」においての加害者は「実母」が最も多い。「３歳以上」では「実母と実父」が３人（30.0%）で最も多い。

心中による虐待死事例における主たる加害者とこどもの年齢について、「３歳以上～６歳未満」では「実母」と「実父」が、「６歳以上」では「実父」が多い。

表 14　主たる加害者と死亡したこどもの年齢（心中以外の虐待死）

区分		死亡したこどもの年齢											
		0歳児								1歳以上～3歳未満		3歳以上	
		0日		1日～1か月未満		1か月～1歳未満		月齢不明					
		人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
実母		10(1)	62.5%	1(0)	50.0%	5(4)	45.5%	0(0)	0.0%	2(0)	40.0%	1(0)	10.0%
実父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	1(1)	9.1%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
養母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
養父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	1(0)	10.0%
継母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
継父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
実母の交際相手		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	1(0)	20.0%	0(0)	0.0%
実父の交際相手		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
母方祖母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
父方祖母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
母方祖父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
父方祖父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
その他		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	1(0)	10.0%
実母と	実父	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	4(3)	36.4%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	3(3)	30.0%
	実父と父方祖母	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	実父とその他	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	継父	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	実母の交際相手	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	2(1)	20.0%
	母方祖母	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	その他	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
小計		10(1)	62.5%	1(0)	50.0%	10(8)	90.9%	0(0)	0.0%	3(0)	60.0%	8(4)	80.0%
不明		6(3)	37.5%	1(0)	50.0%	1(1)	9.1%	4(0)	100.0%	2(1)	40.0%	2(0)	20.0%
計		16(4)	100.0%	2(0)	100.0%	11(9)	100.0%	4(0)	100.0%	5(1)	100.0%	10(4)	100.0%

表 15　主たる加害者と死亡したこどもの年齢（心中による虐待死）　※1

区分		死亡したこどもの年齢									
		1か月未満		1か月～1歳未満		1歳以上～3歳未満		3歳以上～6歳未満		6歳以上	
		人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
実母		1(0)	100.0%	1(0)	100.0%	2(0)	66.7%	3(0)	50.0%	2(0)	40.0%
実父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	1(0)	33.3%	3(0)	50.0%	3(0)	60.0%
養母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
養父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
継母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
継父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
実母の交際相手		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
実父の交際相手		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
母方祖母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
父方祖母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
母方祖父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
父方祖父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
その他		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
実母と	実父	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	実父と父方祖母	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	実父とその他	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	実母の交際相手	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	母方祖母	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	その他	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
小計		1(0)	100.0%	1(0)	100.0%	3(0)	100.0%	6(0)	100.0%	5(0)	100.0%
不明		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
計		1(0)	100.0%	1(0)	100.0%	3(0)	100.0%	6(0)	100.0%	5(0)	100.0%

※1　死亡したこどもの年齢を「不明」と回答した事例を除く

ウ　心中以外の虐待死事例における死因となった虐待の類型別にみた主たる加害者

心中以外の虐待死事例における死因となった虐待の類型別にみた主たる加害者について、「実母」が「身体的虐待」では５割強、「ネグレクト」では３割を占めた。

表 16　死因となった主な虐待の類型と主たる加害者（心中以外の虐待死）

区分		身体的虐待		ネグレクト		心理的虐待		性的虐待		不明	
		人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
実母		11(2)	52.4%	8(3)	32.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
実父		1(1)	4.8%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
養母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
養父		1(0)	4.8%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
継母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
継父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
実母の交際相手		1(0)	4.8%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
実父の交際相手		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
母方祖母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
父方祖母		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
母方祖父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
父方祖父		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
その他		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
実母と	実父	2(2)	9.5%	5(4)	20.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
	実父と父方祖母	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
	実父とその他	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
	継父	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
	実母の交際相手	2(1)	9.5%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
	母方祖母	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
	その他	1(0)	4.8%	0(0)	0.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
小計		19(6)	90.5%	13(7)	52.0%	0(0)	－	0(0)	－	0(0)	0.0%
不明		2(0)	9.5%	12(4)	48.0%	0(0)	－	0(0)	－	2(1)	100.0%
計		21(6)	100.0%	25(11)	100.0%	0(0)	－	0(0)	－	2(1)	100.0%

④ 加害の動機

ア 心中以外の虐待死事例における加害の動機

心中以外の虐待死事例における加害の動機について、動機が「不明」「その他」である場合を除き、「こどもの世話・養育方法がわからない」「こどもの世話・養育をする余裕がない」がそれぞれ３人（6.3%）であった。

表 17 加害の動機（心中以外の虐待死）

区分	第2次から第 20 次まで		第 21 次		総数（第2次から第 21 次まで）	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
しつけのつもり	98(7)	9.6%	2(0)	4.2%	100(7)	9.4%
こどもがなつかない	15(1)	1.5%	0(0)	0.0%	15(1)	1.4%
パートナーへの愛情を独占されたなど、こどもに対する嫉妬心	5(0)	0.5%	0(0)	0.0%	5(0)	0.5%
パートナーへの怒りをこどもに向ける	11(1)	1.1%	0(0)	0.0%	11(1)	1.0%
慢性の疾患等の苦しみからこどもを救おうという主観的意図 ※1	6(0)	0.6%	0(0)	0.0%	6(0)	0.6%
こどもの暴力などから身を守るため	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
MSBP（代理ミュンヒハウゼン症候群）	4(0)	0.4%	0(0)	0.0%	4(0)	0.4%
保護を怠ったことによる死亡 ※2	131(12)	15.1%	－	－	131(12)	15.1%
こどもの世話・養育方法がわからない ※3	6(1)	3.9%	3(1)	6.3%	9(2)	4.4%
こどもの世話・養育をする余裕がない ※3	9(2)	5.8%	3(1)	6.3%	12(3)	5.9%
こどもの存在の拒否・否定	83(4)	8.1%	2(1)	4.2%	85(5)	8.0%
泣きやまないことにいらだったため	77(1)	7.5%	2(0)	4.2%	79(1)	7.4%
アルコール又は薬物依存に起因した精神症状による行為	3(1)	0.3%	1(0)	2.1%	4(1)	0.4%
依存系以外に起因した精神症状による行為（妄想などによる）	45(1)	4.4%	0(0)	0.0%	45(1)	4.2%
その他	156(32)	15.3%	9(5)	18.8%	165(37)	15.4%
不明	371(106)	36.4%	26(10)	54.2%	397(116)	37.2%
計	1,020(169)	100.0%	48(18)	100.0%	1,068(187)	100.0%

※1 第 19 次報告までは「慢性の疾患や障害の苦しみから子どもを救おうという主観的意図」
※2 第2次報告から第 17 次報告まで調査。累計母数は 865 人
※3 第 18 次報告から調査。累計母数は 203 人

イ　心中による虐待死事例における加害の動機

心中による虐待死事例における加害の動機について、「保護者自身の精神疾患、精神不安」が３人（17.6%）と最も多く、次いで「夫婦間のトラブルなど家庭に不和」「その他」がそれぞれ１人（5.9%）であった。

表 18　加害の動機（心中による虐待死）（複数回答）

区分	心中による虐待死[17 人]	
	人数	構成割合
こどもの病気・障害	0(0)	0.0%
保護者自身の精神疾患、精神不安	3(0)	17.6%
保護者自身の病気（精神疾患を除く）・障害等	0(0)	0.0%
経済的困窮（多額の借金など）	0(0)	0.0%
育児不安や育児負担感	0(0)	0.0%
夫婦間のトラブルなど家庭に不和	1(0)	5.9%
その他	1(0)	5.9%
不明	13(1)	76.5%

(4)死亡したこどもの生育歴等

① 妊娠期・周産期の問題

妊娠期・周産期の問題について、心中以外の虐待死事例では、「遺棄」が 18 人（37.5%）、次いで「予期しない妊娠／計画していない妊娠」が13人（27.1%）であった。

第３次報告から第 21 次報告までの総数でみると、「予期しない妊娠／計画していない妊娠」「妊婦健康診査未受診」「妊娠届の未提出（母子健康手帳の未交付）」「若年（10代）妊娠」が多い。

特に、「若年（10 代）妊娠」についてみると、我が国における全出生数のうち母親の年齢が若年（10 代）の割合は約 1%前後で推移[注5)]している。一方で、第 21 次報告での心中以外の虐待死事例における「若年（10代）妊娠」の割合は16.7%であり、その割合の高さは顕著である。

その他、「本児を妊娠時の特定妊婦としての支援有」は８人（16.7%）であった。

また、心中による虐待死事例では、「切迫流産・切迫早産」が４人（23.5%）、「帝王切開」「その他（周産期の母体側の問題）」がそれぞれ３人（17.6%）であった。

注5) 平成22年から令和５年までの厚生労働省人口動態統計による。

表 19　妊娠期・周産期の問題（心中以外の虐待死）

区分		第3次から第 20 次まで［970 人］	第 21 次［48 人］	総数（第3次から第 21 次まで）［1,018 人］
切迫流産・切迫早産	人数	80(21)	1(1)	81(22)
	構成割合	8.2%	2.1%	8.0%
妊娠高血圧症候群	人数	32(7)	1(1)	33(8)
	構成割合	3.3%	2.1%	3.2%
喫煙の常習	人数	92(17)	3(2)	95(19)
	構成割合	9.5%	6.3%	9.3%
アルコールの常習	人数	34(4)	2(1)	36(5)
	構成割合	3.5%	4.2%	3.5%
違法薬物の使用／薬物の過剰摂取等 ※1	人数	4(3)	1(1)	5(4)
	構成割合	0.9%	2.1%	1.0%
マタニティブルーズ	人数	29(6)	2(2)	31(8)
	構成割合	3.0%	4.2%	3.0%
予期しない妊娠／計画していない妊娠	人数	269(57)	13(2)	282(59)
	構成割合	27.7%	27.1%	27.7%
若年（10代）妊娠	人数	165(28)	8(4)	173(32)
	構成割合	17.0%	16.7%	17.0%
お腹をたたく等の堕胎行為 ※1	人数	6(2)	0(0)	6(2)
	構成割合	1.3%	0.0%	1.2%
妊娠届の未提出（母子健康手帳の未交付）	人数	198(33)	10(2)	208(35)
	構成割合	20.4%	20.8%	20.4%
妊婦健康診査未受診	人数	265(56)	11(1)	276(57)
	構成割合	27.3%	22.9%	27.1%
胎児虐待　※2	人数	27(−)	−	27(−)
	構成割合	5.3%	−	5.3%
その他（妊娠期の母体側の問題）　※3	人数	50(23)	4(4)	54(27)
	構成割合	8.2%	8.3%	8.2%
自宅分娩（助産師などの立ち会いなし）※4	人数	90(26)	−	90(26)
	構成割合	18.0%	−	18.0%
遺棄　※5	人数	133(42)	18(3)	151(45)
	構成割合	26.7%	37.5%	27.6%
墜落分娩	人数	98(18)	5(1)	103(19)
	構成割合	10.1%	10.4%	10.1%
飛び込み出産　※5	人数	8(3)	0(0)	8(3)
	構成割合	1.6%	0.0%	1.5%
陣痛が微弱であった　※6	人数	6(−)	−	6(−)
	構成割合	1.3%	−	1.3%
帝王切開	人数	120(28)	3(2)	123(30)
	構成割合	12.4%	6.3%	12.1%
救急車で来院　※7	人数	7(−)	−	7(−)
	構成割合	6.4%	−	6.40%
医療機関から連絡　※3	人数	99(38)	9(5)	108(43)
	構成割合	16.3%	18.8%	16.5%
その他（周産期の母体側の問題）　※3	人数	30(13)	4(4)	34(17)
	構成割合	4.9%	8.3%	5.2%
本児を妊娠時の特定妊婦としての支援有　※8	人数	34(18)	8(5)	42(23)
	構成割合	21.9%	16.7%	20.7%
低体重（2500g 未満）	人数	130(31)	3(2)	133(33)
	構成割合	13.4%	6.3%	13.1%
多胎	人数	29(7)	0(0)	29(7)
	構成割合	3.0%	0.0%	2.8%
新生児仮死	人数	25(5)	0(0)	25(5)
	構成割合	2.6%	0.0%	2.5%
その他の疾患・障害　※9	人数	63(20)	3(3)	66(23)
	構成割合	6.9%	6.3%	6.9%
出生時の退院の遅れによる母子分離	人数	86(26)	2(2)	88(28)
	構成割合	8.9%	4.2%	8.6%
NICU入院	人数	72(17)	2(2)	74(19)
	構成割合	7.4%	4.2%	7.3%

※1　第 12 次報告から調査。累計母数は 511 人
※2　第3次報告から第 11 次報告まで調査。累計母数は 507 人
※3　第9次報告から調査。累計母数は 656 人
※4　第 21 次報告から「遺棄」ありの場合のみ回答に変更されたため非掲載
※5　第 11 次報告から調査。累計母数は 547 人
※6　第3次報告から第 10 次報告まで調査。累計母数は 471 人
※7　第9次報告から第 10 次報告まで調査。累計母数は 109 人
※8　第 18 次報告から調査。累計母数は 203 人
※9　第4次報告から調査。累計母数は 962 人

表 20　妊娠期・周産期の問題（心中による虐待死）

区分		第3次から第 20 次まで［627 人］	第 21 次[17 人]	総数（第3次から第 21 次まで）[644 人]
切迫流産・切迫早産	人数	42(0)	4(0)	46(0)
	構成割合	6.7%	23.5%	7.1%
妊娠高血圧症候群	人数	16(0)	1(0)	17(0)
	構成割合	2.6%	5.9%	2.6%
喫煙の常習	人数	23(0)	1(0)	24(0)
	構成割合	3.7%	5.9%	3.7%
アルコールの常習	人数	4(0)	0(0)	4(0)
	構成割合	0.6%	0.0%	0.6%
違法薬物の使用／薬物の過剰摂取等 ※1	人数	3(0)	0(0)	3(0)
	構成割合	1.4%	0.0%	1.3%
マタニティブルーズ	人数	20(0)	2(0)	22(0)
	構成割合	3.2%	11.8%	3.4%
予期しない妊娠／計画していない妊娠	人数	29(0)	0(0)	29(0)
	構成割合	4.6%	0.0%	4.5%
若年（10代）妊娠	人数	15(0)	0(0)	15(0)
	構成割合	2.4%	0.0%	2.3%
お腹をたたく等の堕胎行為 ※1	人数	3(0)	0(0)	3(0)
	構成割合	1.4%	0.0%	1.3%
妊娠届の未提出（母子健康手帳の未交付）	人数	7(0)	0(0)	7(0)
	構成割合	1.1%	0.0%	1.1%
妊婦健康診査未受診	人数	21(1)	0(0)	21(1)
	構成割合	3.3%	0.0%	3.3%
胎児虐待　※2	人数	0(−)	−	0(−)
	構成割合	0.0%	−	0.0%
その他（妊娠期の母体側の問題）※3	人数	19(0)	2(0)	21(0)
	構成割合	5.9%	11.8%	6.2%
自宅分娩（助産師などの立ち会いなし）※4	人数	6(0)	−	6(0)
	構成割合	2.5%	−	2.3%
遺棄　※5	人数	1(0)	0(0)	1(0)
	構成割合	0.4%	0.0%	0.4%
墜落分娩	人数	0(0)	0(0)	0(0)
	構成割合	0.0%	0.0%	0.0%
飛び込み出産　※5	人数	2(0)	0(0)	2(0)
	構成割合	0.8%	0.0%	0.8%
陣痛が微弱であった　※6	人数	4(−)	−	4(−)
	構成割合	1.0%	−	1.0%
帝王切開	人数	57(1)	3(0)	60(1)
	構成割合	9.1%	17.6%	9.3%
救急車で来院　※7	人数	0(−)	−	0(−)
	構成割合	0.0%	−	0.0%
医療機関から連絡　※3	人数	36(3)	2(0)	38(3)
	構成割合	11.2%	11.8%	11.2%
その他（周産期の母体側の問題）※3	人数	17(0)	3(0)	20(0)
	構成割合	5.3%	17.6%	5.9%
本児を妊娠時の特定妊婦としての支援有　※8	人数	5(0)	1(0)	6(0)
	構成割合	7.4%	5.9%	7.1%
低体重（2500g 未満）	人数	35(0)	0(0)	35(0)
	構成割合	5.6%	0.0%	5.4%
多胎	人数	12(0)	0(0)	12(0)
	構成割合	1.9%	0.0%	1.9%
新生児仮死	人数	5(0)	0(0)	5(0)
	構成割合	0.8%	0.0%	0.8%
その他の疾患・障害　※9	人数	28(0)	2(0)	30(0)
	構成割合	4.7%	11.8%	4.9%
出生時の退院の遅れによる母子分離	人数	18(0)	1(0)	19(0)
	構成割合	2.9%	5.9%	3.0%
NICU入院	人数	24(0)	1(0)	25(0)
	構成割合	3.8%	5.9%	3.9%

※1　第 12 次報告から調査。累計母数は 225 人
※2　第3次報告から第 11 次報告まで調査。累計母数は 419 人
※3　第9次報告から調査。累計母数は 338 人
※4　第 21 次報告から「遺棄」ありの場合のみ回答に変更されたため非掲載
※5　第 11 次報告から調査。累計母数は 258 人
※6　第3次報告から第 10 次報告まで調査。累計母数は 386 人
※7　第9次報告から第 10 次報告まで調査。累計母数は 80 人
※8　第 18 次報告から調査。累計母数は 85 人
※9　第4次報告から調査。累計母数は 614 人

【参考事例】

＜特定妊婦として妊娠中から関わりのあった事例＞

〇〇歳児（ネグレクトによる死亡）

発熱のあった本児を病院に連れて行かず、２日後に死亡。20 代前半の実母は本児妊娠時から特定妊婦として関係機関から継続的に支援を受けていた。実母は 10 代で妊娠・出産の経験があり、本児は第４子であった。

〇〇歳児（ネグレクトによる死亡）

両親が外出時にうつぶせとなり死亡。本児は第６子であり、要対協管理ケースとして支援を続けている世帯であった。実母にはそれまでも小学校低学年のきょうだいに乳幼児の見守りを任せて外出といった行動がみられるなど、危機意識が不十分であった。

② 産後ケア事業の利用状況

産後ケア事業の状況について、「利用なし」が心中以外の虐待死事例で 28 人（58.3%）、心中による虐待死事例 11 人（64.7%）といずれも半数以上を占めた。

表 21　産後ケア事業の利用状況

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
利用なし	28(13)	58.3%	11(0)	64.7%
利用あり	2(0)	4.2%	2(0)	11.8%
小計	30(13)	62.5%	13(0)	76.5%
不明	18(5)	37.5%	4(1)	23.5%
計	48(18)	100.0%	17(1)	100.0%

表 22　本児死亡時点における各自治体における産後ケア事業の実施の有無

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
実施なし	4(1)	8.3%	1(0)	5.9%
実施あり	37(15)	77.1%	14(0)	82.4%
本児死亡時は実施していないが現在（調査票記入時）は実施済み	3(2)	6.3%	1(0)	5.9%
小計	44(18)	91.7%	16(0)	94.1%
不明	4(0)	8.3%	1(1)	5.9%
計	48(18)	100.0%	17(1)	100.0%

③ 乳幼児健康診査及び予防接種

ア 乳幼児健康診査の受診の有無

乳幼児健康診査の受診状況について、心中以外の虐待死事例では、「３～４か月児健康診査」の未受診者が４人（有効割合 21.1%）、「１歳６か月児健康診査」の未受診者が４人（同40.0%）、「３歳児健康診査」の未受診者が３人（同37.5%）であった。

心中による虐待死事例では、「３～４か月児健康診査」、「１歳６か月児健康診査」の未受診者がそれぞれ１人（同 8.3%）、「３歳児健康診査」の未受診者が０人であった。

表 23　乳幼児健康診査の受診の有無

区分	心中以外の虐待死[48 人]						心中による虐待死[17 人]					
	受診済み		未受診		年齢的に非該当	不明	受診済み		未受診		年齢的に非該当	不明
	人数	有効割合	人数	有効割合	人数	人数	人数	有効割合	人数	有効割合	人数	人数
3～4か月児健康診査	15(9)	78.9%	4(1)	21.1%	20(7)	9(1)	11(0)	91.7%	1(0)	8.3%	2(0)	3(1)
1歳6か月児健康診査	6(2)	60.0%	4(2)	40.0%	31(13)	7(1)	11(0)	91.7%	1(0)	8.3%	3(0)	2(1)
3歳児健康診査	5(1)	62.5%	3(2)	37.5%	33(14)	7(1)	9(0)	100.0%	0(0)	0.0%	6(0)	2(1)

表 24　乳幼児健康診査の未受診者への対応（複数回答）

3～4か月児健康診査未受診の対応ありの場合		心中以外の虐待死[3 人]		心中による虐待死[1 人]	
		人数	構成割合	人数	構成割合
未受診の対応あり		3(1)		1(0)	
文書による受診勧奨		1(0)	33.3%	1(0)	100.0%
電話による受診勧奨		3(1)	100.0%	1(0)	100.0%
家庭訪問による受診勧奨		2(0)	66.7%	1(0)	100.0%
その他		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
その後の受診の有無又は確認の有無	なし	2(0)	66.7%	0(0)	0.0%
	あり	1(1)	33.3%	1(0)	100.0%
1歳6か月児健康診査未受診の対応ありの場合		**心中以外の虐待死[4 人]**		**心中による虐待死[1 人]**	
		人数	構成割合	人数	構成割合
未受診の対応あり		4(2)		1(0)	
文書による受診勧奨		1(0)	25.0%	1(0)	100.0%
電話による受診勧奨		3(2)	75.0%	1(0)	100.0%
家庭訪問による受診勧奨		1(0)	25.0%	0(0)	0.0%
その他		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
その後の受診の有無又は確認の有無	なし	1(0)	25.0%	1(0)	100.0%
	あり	3(2)	75.0%	0(0)	0.0%
3歳児健康診査未受診の対応ありの場合		**心中以外の虐待死[3 人]**		**心中による虐待死[0 人]**	
		人数	構成割合	人数	構成割合
未受診の対応あり		3(2)		0(0)	
文書による受診勧奨		1(1)	33.3%	－	－
電話による受診勧奨		1(1)	33.3%	－	－
家庭訪問による受診勧奨		2(1)	66.7%	－	－
その他		0(0)	0.0%	－	－
その後の受診の有無又は確認の有無	なし	2(1)	66.7%	－	－
	あり	1(1)	33.3%	－	－

イ　予防接種の接種状況

予防接種の接種状況について、心中以外の虐待死事例では、「一部、必要な予防接種が未接種である」が「３～４か月児健康診査時点」で３人（有効割合 15.8%）、「１歳６か月児健康診査時点」で１人（同 8.3%）であった。

心中による虐待死事例では、「一部、必要な予防接種が未接種である」が「１歳６か月児健康診査時点」「３歳児健康診査時点」でそれぞれ１人（１歳６か月児 同 8.3%、３歳児 同 10.0%）であった。

表 25　予防接種の接種状況

区分	心中以外の虐待死[48 人]							
	必要な予防接種は終了している（遅滞のある場合も含む）		一部、必要な予防接種が未接種である		必要な予防接種をすべて接種していない		年齢的に非該当	不明
	人数	有効割合	人数	有効割合	人数	有効割合	人数	人数
3～4か月児健康診査時点	15(8)	78.9%	3(2)	15.8%	1(1)	5.3%	19(6)	10(1)
1歳6か月児健康診査時点	8(3)	66.7%	1(1)	8.3%	3(2)	25.0%	27(11)	9(1)
3歳児健康診査時点	6(2)	75.2%	2(1)	25.0%	0(0)	0.0%	38(14)	2(1)

区分	心中による虐待死[17 人]							
	必要な予防接種は終了している（遅滞のある場合も含む）		一部、必要な予防接種が未接種である		必要な予防接種をすべて接種していない		年齢的に非該当	不明
	人数	有効割合	人数	有効割合	人数	有効割合	人数	人数
3～4か月児健康診査時点	13(0)	100.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	2(0)	2(1)
1歳6か月児健康診査時点	11(0)	91.7%	1(0)	8.3%	0(0)	0.0%	3(0)	2(1)
3歳児健康診査時点	9(0)	90.0%	1(0)	10.0%	0(0)	0.0%	5(0)	2(1)

④ こどもの疾患･障害等

ア こどもの疾患・障害等の有無等

こどもの疾患・障害等について、心中以外の虐待死事例では、「身体発育の問題（極端な痩せ、身長が低いなど)」がある事例が４人（8.3%)、「身体疾患」「障害」がある事例がともに２人（4.2%）であった。心中による虐待死事例では、「身体疾患」２人（11.8%)、「障害」「発達の問題（発達障害、自閉症など)」がある事例がともに１人（5.9%）であった。

表 26　こどもの疾患・障害等の有無等

区分	心中以外の虐待死[48 人]							
	あり		なし		不明		疑い	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
身体疾患	2(1)	4.2%	21(12)	43.8%	25(5)	52.1%		
障害	2(1)	4.2%	19(10)	39.6%	27(7)	56.3%		
発達の問題 （発達障害、自閉症など）	0(0)	0.0%	20(10)	41.7%	25(5)	52.1%	3(3)	6.3%
身体発育の問題 （極端な痩せ、身長が低いなど）	4(3)	8.3%	19(10)	39.6%	25(5)	52.1%		

区分	心中による虐待死[17 人]							
	あり		なし		不明		疑い	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
身体疾患	2(0)	11.8%	12(0)	70.6%	3(1)	17.6%		
障害	1(0)	5.9%	12(0)	70.6%	4(1)	23.5%		
発達の問題 （発達障害、自閉症など）	1(0)	5.9%	11(0)	64.7%	3(1)	17.6%	2(0)	11.8%
身体発育の問題 （極端な痩せ、身長が低いなど）	0(0)	0.0%	15(0)	88.2%	2(1)	11.8%		

表 27　障害ありの場合の手帳の有無

区分				あり				なし	不明
					うち 手帳あり	うち 手帳なし	うち 手帳不明		
心中以外の虐待死［48 人］	障害あり［2 人］	知的障害	人数	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(1)	0(0)
			構成割合	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	－
		身体障害	人数	2(1)	2(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
			構成割合	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	－
心中による虐待死［17 人］	障害あり［1 人］	知的障害	人数	1(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
			構成割合	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	－
		身体障害	人数	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)
			構成割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	－

イ　疾患・障害等があったこどもと関係機関の関与状況

疾患・障害等があったこどもと関係機関の関与状況について、心中以外の虐待死事例では、発達の問題（発達障害、自閉症など）を除き、何らかの機関の関与があった。関与した関係機関には、「児童相談所」「市区町村（虐待対応担当部署）」「福祉事務所」「民生委員・児童委員」「市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）」「医療機関」などがあった。

また、心中による虐待死事例においても、「福祉事務所」「保健所」「市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）」などの関与があった。

表 28　疾患・障害等があったこどもと関係機関の関与状況（複数回答）　※1

区分			こどもの疾病・障害等							
			心中以外の虐待死				心中による虐待死			
			身体疾患［2人］	障害（知的障害、身体障害）［2人］	発達の問題（発達障害、自閉症など）［0人］	身体発育の問題（極端な痩せ、身長が低いなど）［4人］	身体疾患［2人］	障害（知的障害、身体障害）［1人］	発達の問題（発達障害、自閉症など）［1人］	身体発育の問題（極端な痩せ、身長が低いなど）［0人］
何らかの機関の関与があったこどもの数（人数）			2(1)	2(1)	0(0)	4(3)	2(0)	1(0)	1(0)	0(0)
関与した関係機関	児童相談所		1(0)	1(0)	0(0)	3(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	市区町村（虐待対応担当部署）		0(0)	0(0)	0(0)	2(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	その他の機関		2(1)	2(1)	0(0)	4(3)	2(0)	1(0)	1(0)	0(0)
	内訳	福祉事務所	1(1)	1(1)	0(0)	2(2)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		家庭児童相談室	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		民生委員・児童委員	1(1)	1(1)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		保健所	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）	2(1)	2(1)	0(0)	3(2)	1(0)	1(0)	1(0)	0(0)
		養育機関・教育機関	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		医療機関	2(1)	2(1)	0(0)	4(3)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		助産所※2	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		警察	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		女性相談支援センター※3	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
		配偶者暴力相談支援センター	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

※1　[　]内は疾患・障害等があったこどもの人数
※2　第 20 次報告の「助産師」より名称変更
※3　第 20 次報告の「婦人相談所」より名称変更

⑤ こどもの情緒･行動上の問題

こどもの情緒・行動上の問題について、心中以外の虐待死事例では、問題「なし」が 11 人（有効割合 61.1%）、「あり」が７人（同 38.9%）であった。「あり」の内訳は、「その他」が６人（同 33.3%）、次いで「指示に従わない」が３人（同 16.7%）、「衝動性」「かんしゃく」がそれぞれ２人（同 11.1%）であった。

また、心中による虐待死事例では、問題「なし」が８人（同 88.9%）、「あり」が１人（同 11.1%）であった。「あり」の内訳は、「かんしゃく」が１人（同 11.1%）であった。

表 29　こどもの情緒・行動上の問題

区分		心中以外の虐待死			心中による虐待死		
		人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
なし		11(6)	22.9%	61.1%	8(0)	47.1%	88.9%
あり		7(6)	14.6%	38.9%	1(0)	5.9%	11.1%
内訳	ミルクの飲みムラ	1(1)	2.1%	5.6%	0(0)	0.0%	0.0%
	激しい泣き	1(1)	2.1%	5.6%	0(0)	0.0%	0.0%
	夜泣き	1(1)	2.1%	5.6%	0(0)	0.0%	0.0%
	食事の拒否	1(1)	2.1%	5.6%	0(0)	0.0%	0.0%
	夜尿	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	多動	1(1)	2.1%	5.6%	0(0)	0.0%	0.0%
	衝動性	2(1)	4.2%	11.1%	0(0)	0.0%	0.0%
	かんしゃく	2(2)	4.2%	11.1%	1(0)	5.9%	11.1%
	自傷行為	1(1)	2.1%	5.6%	0(0)	0.0%	0.0%
	性器いじり	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	指示に従わない	3(3)	6.3%	16.7%	0(0)	0.0%	0.0%
	なつかない	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	無表情、表情が乏しい	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	固まってしまう	1(1)	2.1%	5.6%	0(0)	0.0%	0.0%
	盗癖	1(0)	2.1%	5.6%	0(0)	0.0%	0.0%
	虚言癖	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	不登校	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	その他	6(5)	12.5%	33.3%	0(0)	0.0%	0.0%
小計		18(12)	37.5%	100.0%	9(0)	52.9%	100.0%
不明		30(6)	62.5%		8(1)	47.1%	
計		48(18)	100.0%	－	17(1)	100.0%	－

⑥ こどもの養育機関･教育機関の所属

こどもの養育機関・教育機関の所属について、心中以外の虐待死事例では、所属「あり」が９人（有効割合 22.5%）であった。「あり」の内訳は、「認可保育所」が７人（同 17.5%）と最も多く、次いで「認可外保育所」「認定こども園」がそれぞれ１人（同 2.5%）であった。

また、心中による虐待死事例では、所属「あり」が 12 人（同 75.0%）であった。「あり」の内訳は、「認可保育所」が６人（同 37.5%）と最も多く、次いで「小学校」が４人（同 25.0%）であった。

表 30　こどもの養育機関・教育機関の所属

区分		心中以外の虐待死			心中による虐待死		
		人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
なし		31(12)	64.6%	77.5%	4(0)	23.5%	25.0%
あり		9(5)	18.8%	22.5%	12(0)	70.6%	75.0%
内訳	認可保育所	7(4)	14.6%	17.5%	6(0)	35.3%	37.5%
	認可外保育所	1(1)	2.1%	2.5%	0(0)	0.0%	0.0%
	認定こども園	1(0)	2.1%	2.5%	1(0)	5.9%	6.3%
	幼稚園	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	小学校	0(0)	0.0%	0.0%	4(0)	23.5%	25.0%
	中学校	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	高等学校	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	特別支援学校	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	その他	0(0)	0.0%	0.0%	1(0)	5.9%	6.3%
小計		40(17)	83.3%	100.0%	16(0)	94.1%	100.0%
不明		8(1)	16.7%		1(1)	5.9%	
計		48(18)	100.0%	－	17(1)	100.0%	－

(5)養育環境

① 養育者の心理的･精神的問題等

ア 養育者（実母）の心理的・精神的問題等

養育者（実母）の心理的・精神的問題等について、心中以外の虐待死事例では、「養育能力の低さ」10 人（22.7%）と最も多く、次いで「育児不安」が８人（18.2%）であった。第５次報告から第 21 次報告までの総数を見ると、「養育能力の低さ」「育児不安」が多い。

心中による虐待死事例では「育児不安」が２人（12.5%）と多かった。第５次報告から第 21 次報告までの総数をみると、「育児不安」「精神障害（医師の診断によるもの)」「うつ状態」が多い。

なお、「養育能力の低さ」とは、こどもの成長発達を促すために必要な関わり（授乳や食事、保清、情緒的な要求への応答、こどもの体調変化の把握、安全面への配慮等）が適切にできない場合としている。

表 31　養育者（実母）の心理的・精神的問題等（心中以外の虐待死）　※1

区分		第5次から第 20 次まで［832 人］	第 21 次［44 人］	総数（第5次から第 21 次まで）［876 人］
育児不安	人数	198(34)	8(4)	206(38)
	構成割合	23.8%	18.2%	23.5%
マタニティブルーズ	人数	28(6)	1(1)	29(7)
	構成割合	3.4%	2.3%	3.3%
産後うつ	人数	44(7)	2(1)	46(8)
	構成割合	5.3%	4.5%	5.3%
知的障害	人数	45(7)	3(0)	48(7)
	構成割合	5.4%	6.8%	5.5%
精神障害（医師の診断によるもの	人数	90(18)	6(5)	96(23)
	構成割合	10.8%	13.6%	11.0%
身体障害	人数	4(0)	0(0)	4(0)
	構成割合	0.5%	0.0%	0.5%
その他の障害	人数	10(3)	1(0)	11(3)
	構成割合	1.2%	2.3%	1.3%
アルコール依存	人数	15(2)	1(0)	16(2)
	構成割合	1.8%	2.3%	1.8%
薬物依存	人数	8(3)	1(1)	9(4)
	構成割合	1.0%	2.3%	1.0%
ギャンブル依存　※2	人数	3(1)	0(0)	3(1)
	構成割合	0.8%	0.0%	0.7%
衝動性	人数	88(9)	6(2)	94(11)
	構成割合	10.6%	13.6%	10.7%
攻撃性	人数	74(8)	6(2)	80(10)
	構成割合	8.9%	13.6%	9.1%
怒りのコントロール不全	人数	72(10)	6(2)	78(12)
	構成割合	8.7%	13.6%	8.9%
うつ状態	人数	88(13)	4(3)	92(16)
	構成割合	10.6%	9.1%	10.5%
躁状態	人数	11(3)	0(0)	11(3)
	構成割合	1.3%	0.0%	1.3%
感情の起伏が激しい	人数	75(16)	5(3)	80(19)
	構成割合	9.0%	11.4%	9.1%
高い依存性	人数	54(8)	4(4)	58(12)
	構成割合	6.5%	9.1%	6.6%
幻視、幻聴	人数	17(0)	1(1)	18(1)
	構成割合	2.0%	2.3%	2.1%
妄想	人数	17(0)	0(0)	17(0)
	構成割合	2.0%	0.0%	1.9%
DVを受けている	人数	70(12)	6(4)	76(16)
	構成割合	8.4%	13.6%	8.7%
DVを行っている	人数	9(1)	1(1)	10(2)
	構成割合	1.1%	2.3%	1.1%
自殺未遂の既往	人数	37(8)	3(2)	40(10)
	構成割合	4.4%	6.8%	4.6%
養育能力の低さ	人数	231(44)	10(7)	241(51)
	構成割合	27.8%	22.7%	27.5%
日本語でのコミュニケーションが難しい（日本語を母国語としていない）　※3	人数	16(6)	1(0)	17(6)
	構成割合	2.5%	2.3%	2.4%

※1　実母の有無について「いない」「不明」と回答した事例を除く
※2　第 14 次報告から調査。累計母数は 408 人
※3　第8次報告から調査。累計母数は 694 人

表 32　養育者（実母）の心理的・精神的問題等（心中による虐待死）　※1

区分		第5次から第 20 次まで［456 人］	第 21 次［16 人］	総数（第5次から第 21 次まで）［472 人］
育児不安	人数	114(2)	2(0)	116(2)
	構成割合	25.0%	12.5%	24.6%
マタニティブルーズ	人数	13(0)	0(0)	13(0)
	構成割合	2.9%	0.0%	2.8%
産後うつ	人数	25(2)	0(0)	25(2)
	構成割合	5.5%	0.0%	5.3%
知的障害	人数	4(0)	0(0)	4(0)
	構成割合	0.9%	0.0%	0.8%
精神障害（医師の診断によるもの	人数	109(1)	0(0)	109(1)
	構成割合	23.9%	0.0%	23.1%
身体障害	人数	4(0)	0(0)	4(0)
	構成割合	0.9%	0.0%	0.8%
その他の障害	人数	3(0)	0(0)	3(0)
	構成割合	0.7%	0.0%	0.6%
アルコール依存	人数	7(0)	0(0)	7(0)
	構成割合	1.5%	0.0%	1.5%
薬物依存	人数	4(0)	0(0)	4(0)
	構成割合	0.9%	0.0%	0.8%
ギャンブル依存　※2	人数	0(0)	0(0)	0(0)
	構成割合	0.0%	0.0%	0.0%
衝動性	人数	38(0)	1(0)	39(0)
	構成割合	8.3%	6.3%	8.3%
攻撃性	人数	18(0)	0(0)	18(0)
	構成割合	3.9%	0.0%	3.8%
怒りのコントロール不全	人数	18(0)	0(0)	18(0)
	構成割合	3.9%	0.0%	3.8%
うつ状態	人数	107(1)	1(0)	108(1)
	構成割合	23.5%	6.3%	22.9%
躁状態	人数	5(0)	0(0)	5(0)
	構成割合	1.1%	0.0%	1.1%
感情の起伏が激しい	人数	32(0)	0(0)	32(0)
	構成割合	7.0%	0.0%	6.8%
高い依存性	人数	16(0)	0(0)	16(0)
	構成割合	3.5%	0.0%	3.4%
幻視、幻聴	人数	5(0)	0(0)	5(0)
	構成割合	1.1%	0.0%	1.1%
妄想	人数	13(0)	0(0)	13(0)
	構成割合	2.9%	0.0%	2.8%
DVを受けている	人数	19(1)	0(0)	19(1)
	構成割合	4.2%	0.0%	4.0%
DVを行っている	人数	10(0)	0(0)	10(0)
	構成割合	2.2%	0.0%	2.1%
自殺未遂の既往	人数	38(0)	1(0)	39(0)
	構成割合	8.3%	6.3%	8.3%
養育能力の低さ	人数	31(1)	0(0)	31(1)
	構成割合	6.8%	0.0%	6.6%
日本語でのコミュニケーションが難しい（日本語を母国語としていない）　※3	人数	7(2)	0(0)	7(2)
	構成割合	2.1%	0.0%	2.0%

※1　実母の有無について「いない」「不明」と回答した事例を除く
※2　第 14 次報告から調査。累計母数は 155 人
※3　第8次報告から調査。累計母数は 355 人

【参考事例】

＜実母の心理的・精神的問題があった事例＞
〇〇歳（実母による心中により死亡）
母子保健担当部署が関与していた。
実母は事例発生１週間前から精神的に不安定であり、精神科入院を予定していた日の前日に母子ともに転落死。

イ　養育者（実父）の心理的・精神的問題等

養育者（実父）の心理的・精神的問題等について、心中以外の虐待死事例では、「養育能力の低さ」が４人（16.0％）と多く、次いで「衝動性」「攻撃性」「怒りのコントロール不全」「ＤＶを行っている」がそれぞれ３人（12.0％）であった。第５次報告から第 21 次報告までの総数を見ると、「養育能力の低さ」「攻撃性」「感情の起伏が激しい」「衝動性」「怒りのコントロール不全」が多かった。

また、心中による虐待死事例では、「精神障害（医師の診断によるもの」「衝動性」「うつ状態」「躁状態」がそれぞれ１人（7.1％）であった。

表 33　養育者（実父）の心理的・精神的問題等（心中以外の虐待死）　※1

区分		第5次から第 20 次まで［591 人］	第 21 次［25 人］	総数（第5次から第 21 次まで）［616 人］
育児不安	人数	23(5)	0(0)	23(5)
	構成割合	3.9%	0.0%	3.7%
知的障害	人数	8(3)	0(0)	8(3)
	構成割合	1.4%	0.0%	1.3%
精神障害（医師の診断によるもの	人数	20(8)	2(1)	22(9)
	構成割合	3.4%	8.0%	3.6%
身体障害	人数	5(1)	0(0)	5(1)
	構成割合	0.8%	0.0%	0.8%
その他の障害	人数	5(2)	0(0)	5(2)
	構成割合	0.8%	0.0%	0.8%
アルコール依存	人数	6(2)	0(0)	6(2)
	構成割合	1.0%	0.0%	1.0%
薬物依存	人数	4(1)	0(0)	4(1)
	構成割合	0.7%	0.0%	0.6%
ギャンブル依存　※2	人数	2(0)	0(0)	2(0)
	構成割合	0.8%	0.0%	0.7%
衝動性	人数	57(10)	3(3)	60(13)
	構成割合	9.6%	12.0%	9.7%
攻撃性	人数	65(9)	3(3)	68(12)
	構成割合	11.0%	12.0%	11.0%
怒りのコントロール不全	人数	57(7)	3(3)	60(10)
	構成割合	9.6%	12.0%	9.7%
うつ状態	人数	11(3)	1(0)	12(3)
	構成割合	1.9%	4.0%	1.9%
躁状態	人数	6(3)	0(0)	6(3)
	構成割合	1.0%	0.0%	1.0%
感情の起伏が激しい	人数	60(16)	2(2)	62(18)
	構成割合	10.2%	8.0%	10.1%
高い依存性	人数	13(3)	0(0)	13(3)
	構成割合	2.2%	0.0%	2.1%
幻視、幻聴	人数	2(0)	0(0)	2(0)
	構成割合	0.3%	0.0%	0.3%
妄想	人数	2(0)	0(0)	2(0)
	構成割合	0.3%	0.0%	0.3%
DVを受けている	人数	10(2)	1(1)	11(3)
	構成割合	1.7%	4.0%	1.8%
DVを行っている	人数	54(11)	3(3)	57(14)
	構成割合	9.1%	12.0%	9.3%
自殺未遂の既往	人数	7(2)	0(0)	7(2)
	構成割合	1.2%	0.0%	1.1%
養育能力の低さ	人数	92(23)	4(4)	96(27)
	構成割合	15.6%	16.0%	15.6%
日本語でのコミュニケーションが難しい（日本語を母国語としていない）　※3	人数	12(4)	0(0)	12(4)
	構成割合	2.6%	0.0%	2.4%

※1　実父の有無について「いない」「不明」と回答した事例を除く

※2　第 14 次報告から調査。累計母数は 288 人

※3　第8次報告から調査。累計母数は 494 人

表 34　養育者（実父）の心理的・精神的問題等（心中による虐待死）　※1

区分		第5次から第 20 次まで［389 人］	第 21 次［14 人］	総数（第5次から第 21 次まで）［403 人］
育児不安	人数	18(0)	0(0)	18(0)
	構成割合	4.6%	0.0%	4.5%
知的障害	人数	0(0)	0(0)	0(0)
	構成割合	0.0%	0.0%	0.0%
精神障害（医師の診断によるもの	人数	9(0)	1(0)	10(0)
	構成割合	2.3%	7.1%	2.5%
身体障害	人数	2(0)	0(0)	2(0)
	構成割合	0.5%	0.0%	0.5%
その他の障害	人数	0(0)	0(0)	0(0)
	構成割合	0.0%	0.0%	0.0%
アルコール依存	人数	1(0)	0(0)	1(0)
	構成割合	0.3%	0.0%	0.2%
薬物依存	人数	0(0)	0(0)	0(0)
	構成割合	0.0%	0.0%	0.0%
ギャンブル依存　※2	人数	1(0)	0(0)	1(0)
	構成割合	0.8%	0.0%	0.7%
衝動性	人数	18(0)	1(0)	19(0)
	構成割合	4.6%	7.1%	4.7%
攻撃性	人数	14(0)	0(0)	14(0)
	構成割合	3.6%	0.0%	3.5%
怒りのコントロール不全	人数	18(0)	0(0)	18(0)
	構成割合	4.6%	0.0%	4.5%
うつ状態	人数	15(0)	1(0)	16(0)
	構成割合	3.9%	7.1%	4.0%
躁状態	人数	0(0)	1(0)	1(0)
	構成割合	0.0%	7.1%	0.2%
感情の起伏が激しい	人数	14(0)	0(0)	14(0)
	構成割合	3.6%	0.0%	3.5%
高い依存性	人数	1(0)	0(0)	1(0)
	構成割合	0.3%	0.0%	0.2%
幻視、幻聴	人数	0(0)	0(0)	0(0)
	構成割合	0.0%	0.0%	0.0%
妄想	人数	4(0)	0(0)	4(0)
	構成割合	1.0%	0.0%	1.0%
DVを受けている	人数	5(0)	0(0)	5(0)
	構成割合	1.3%	0.0%	1.2%
DVを行っている	人数	18(0)	0(0)	18(0)
	構成割合	4.6%	0.0%	4.5%
自殺未遂の既往	人数	2(0)	0(0)	2(0)
	構成割合	0.5%	0.0%	0.5%
養育能力の低さ	人数	4(0)	0(0)	4(0)
	構成割合	1.0%	0.0%	1.0%
日本語でのコミュニケーションが難しい（日本語を母国語としていない）　※3	人数	3(0)	0(0)	3(0)
	構成割合	1.0%	0.0%	1.0%

※1　実父の有無について「いない」「不明」と回答した事例を除く

※2　第 14 次報告から調査。累計母数は 142 人

※3　第8次報告から調査。累計母数は 305 人

（6）関係機関の関与・対応状況

① 虐待通告の状況

ア 虐待通告の有無と通告先

死亡事例の発生以前になされた虐待通告について、心中以外の虐待死事例では、通告「なし」が 26 人（54.2%）、「あり」が 13 人（27.1%）であった。虐待通告先は、「児童相談所」が 10 人（20.8%）、「虐待対応担当部署」が２人（4.2%）であった。

心中による虐待死事例では、通告「なし」が 15 人（88.2%）、「あり」が１人（5.9%）であり、虐待通告先は、「虐待対応担当部署」が１人（5.9%）であった。

表 35　虐待通告の有無と通告先（直近１回）（心中以外の虐待死）

区分			第5次から第 20 次まで	第 21 次	総数（第5次から第 21 次まで）
なし		人数	637(113)	26(7)	663(120)
		構成割合	74.7%	54.2%	73.6%
あり		人数	190(53)	13(9)	203(62)
		構成割合	22.3%	27.1%	22.5%
内訳	児童相談所	人数	130(38)	10(8)	140(46)
		構成割合	15.2%	20.8%	15.5%
	虐待対応担当部署 ※	人数	51(13)	2(1)	53(14)
		構成割合	6.0%	4.2%	5.9%
	都道府県が設置する福祉事務所	人数	2(0)	0(0)	2(0)
		構成割合	0.2%	0.0%	0.2%
	その他	人数	5(0)	0(0)	5(0)
		構成割合	0.6%	0.0%	0.6%
	不明	人数	2(2)	1(0)	3(2)
		構成割合	0.2%	2.1%	0.3%
不明		人数	26(3)	9(2)	35(5)
		構成割合	3.0%	18.8%	3.9%
計		人数	853(169)	48(18)	901(187)
		構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

※ 第 20 次報告の「市区町村」より名称変更

表 36　虐待通告の有無と通告先（直近 1 回）（心中による虐待死）

区分			第5次から第 20 次まで	第 21 次	総数（第5次から第 21 次まで）
なし		人数	391(9)	15(0)	406(9)
		構成割合	73.5%	88.2%	74.0%
あり		人数	67(2)	1(0)	68(2)
		構成割合	12.6%	5.9%	12.4%
内訳	児童相談所	人数	35(0)	0(0)	35(0)
		構成割合	6.6%	0.0%	6.4%
	虐待対応担当部署 ※	人数	28(2)	1(0)	29(2)
		構成割合	5.3%	5.9%	5.3%
	都道府県が設置する福祉事務所	人数	1(0)	0(0)	1(0)
		構成割合	0.2%	0.0%	0.2%
	その他	人数	3(0)	0(0)	3(0)
		構成割合	0.6%	0.0%	0.5%
不明		人数	74(1)	1(1)	75(2)
		構成割合	13.9%	5.9%	13.7%
計		人数	532(12)	17(1)	549(13)
		構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

※ 第 20 次の「市区町村」より名称変更

② 児童相談所の関与

ア 児童相談所の関与の状況

児童相談所の関与の状況について、心中以外の虐待死事例では、関与「あり」が15人（31.3%）、「なし」が25人（52.1%）であった。

心中による虐待死事例では、関与「なし」が16人（94.1%）であった。

表37 児童相談所の関与状況（心中以外の虐待死）

区分		第5次から第20次まで	第21次	総数（第5次から第21次まで）
あり	人数	205(51)	15(9)	220(60)
	構成割合	24.0%	31.3%	24.4%
なし	人数	627(115)	25(7)	652(122)
	構成割合	73.5%	52.1%	72.4%
不明	人数	21(3)	8(2)	29(5)
	構成割合	2.5%	16.7%	3.2%
計	人数	853(169)	48(18)	901(187)
	構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

表38 児童相談所の関与状況（心中による虐待死）

区分		第5次から第20次まで	第21次	総数（第5次から第21次まで）
あり	人数	83(1)	0(0)	83(1)
	構成割合	15.6%	0.0%	15.1%
なし	人数	377(10)	16(0)	393(10)
	構成割合	70.9%	94.1%	71.6%
不明	人数	72(1)	1(1)	73(2)
	構成割合	13.5%	5.9%	13.3%
計	人数	532(12)	17(1)	549(13)
	構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

イ　児童相談所等の関与の状況

児童相談所等の関与の状況について、心中以外の虐待死事例では、「児童相談所の関与あり」の 15 人のうち「市区町村（虐待対応担当部署）の関与あり」は 14 人（93.3%）、「その他の機関の関与あり」は全てであった。「その他の機関の関与」について、具体的には「市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）」「医療機関」「養育機関・教育機関」「警察」「福祉事務所」などがあった。

表 39　児童相談所と市区町村（虐待対応担当部署）の関与状況

区分		心中以外の虐待死 [15 人]		心中による虐待死 [0 人]	
		人数	構成割合	人数	構成割合
児童相談所の関与あり		15(9)		0(0)	
	市区町村(虐待対応担当部署)の関与あり	14(9)	93.3%	－	－
	その他の機関の関与あり	15(9)	100.0%	－	－

ウ　児童相談所における相談種別

児童相談所で関与した事例における相談種別について、心中以外の虐待死事例では、「虐待相談」が 13 人（86.7%）と最も多く、次いで「虐待以外の養護相談」３人（20.0%）であった。

表 40　児童相談所における相談種別（複数回答）

区分	第5次から第 20 次まで				第 21 次				総数（第5次から第 21 次まで）			
	心中以外の虐待死 [205 人]		心中による虐待死 [83 人]		心中以外の虐待死 [15 人]		心中による虐待死 [0 人]		心中以外の虐待死 [220 人]		心中による虐待死 [83 人]	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
虐待相談	141(36)	68.8%	39(0)	47.0%	13(9)	86.7%	0(0)	－	154(45)	70.0%	39(0)	47.0%
虐待以外の養護相談	70(20)	34.1%	32(1)	38.6%	3(2)	20.0%	0(0)	－	73(22)	33.2%	32(1)	38.6%
障害相談	12(3)	5.9%	21(0)	25.3%	2(1)	13.3%	0(0)	－	14(4)	6.4%	21(0)	25.3%
非行相談	1(0)	0.5%	2(0)	2.4%	0(0)	0.0%	0(0)	－	1(0)	0.5%	2(0)	2.4%
育成相談	3(0)	1.5%	5(0)	6.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	3(0)	1.4%	5(0)	6.0%
保健相談	1(1)	0.5%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	－	1(1)	0.5%	0(0)	0.0%
その他	9(1)	4.4%	2(0)	2.4%	1(1)	6.7%	0(0)	－	10(2)	4.5%	2(0)	2.4%

エ　児童相談所における虐待についての認識

児童相談所が関与した事例における児童相談所の虐待についての認識において、心中以外の虐待死事例では、「虐待の認識があり、対応していた」が 10 人（66.7%）と最も多く、次いで「虐待の可能性は認識していたが、確定していなかった」が３人(20.0%)であった。第５次報告から第 21 次報告までの総数をみると、「虐待の認識があり、対応していた」事例が多い。

表 41　児童相談所における虐待についての認識（心中以外の虐待死）

区分		第5次から第 20 次まで	第 21 次	総数（第5次から第 21 次まで）
虐待の認識があり、対応していた	人数	91(27)	10(7)	101(34)
	構成割合	44.4%	66.7%	45.9%
虐待の可能性は認識していたが、確定していなかった	人数	63(13)	3(1)	66(14)
	構成割合	30.7%	20.0%	30.0%
虐待の認識はなかった	人数	51(11)	2(1)	53(12)
	構成割合	24.9%	13.3%	24.1%
計	人数	205(51)	15(9)	220(60)
	構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

表 42　児童相談所における虐待についての認識（心中による虐待死）

区分		第5次から第 20 次まで	第 21 次	総数（第5次から第 21 次まで）
虐待の認識があり、対応していた	人数	30(0)	0(0)	30(0)
	構成割合	36.1%	－	36.1%
虐待の可能性は認識していたが、確定していなかった	人数	9(0)	0(0)	9(0)
	構成割合	10.8%	－	10.8%
虐待の認識はなかった	人数	44(1)	0(0)	44(1)
	構成割合	53.0%	－	53.0%
計	人数	83(1)	0(0)	83(1)
	構成割合	100.0%	－	100.0%

オ　児童相談所におけるリスク判定の定期的な見直し状況

児童相談所が関与した事例におけるリスク判定の見直し状況について、心中以外の虐待死事例では、定期的な見直しを「行った」が４人（26.7%）、「行わなかった」が 11 人（73.3%）であった。

第５次報告から第 21 次報告までの心中以外の虐待死事例の総数は、定期的な見直しを「行った」が 63 人（28.6%）、「行わなかった」が 156 人（70.9%）であった。

表 43　児童相談所におけるリスク判定の定期的な見直し状況（心中以外の虐待死）

区分		第5次から第 20 次まで	第 21 次	総数（第5次から第 21 次まで）
行った	人数	59(21)	4(2)	63(23)
	構成割合	28.8%	26.7%	28.6%
行わなかった	人数	145(30)	11(7)	156(37)
	構成割合	70.7%	73.3%	70.9%
不明	人数	1(0)	0(0)	1(0)
	構成割合	0.5%	0.0%	0.5%
計	人数	205(51)	15(9)	220(60)
	構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

表 44　児童相談所におけるリスク判定の定期的な見直し状況（心中による虐待死）

区分		第5次から第 20 次まで	第 21 次	総数（第5次から第 21 次まで）
行った	人数	13(0)	0(0)	13(0)
	構成割合	15.7%	－	15.7%
行わなかった	人数	70(1)	0(0)	70(1)
	構成割合	84.3%	－	84.3%
不明	人数	0(0)	0(0)	0(0)
	構成割合	0.0%	－	0.0%
計	人数	83(1)	0(0)	83(1)
	構成割合	100.0%	－	100.0%

カ　児童相談所による最終安全確認の時期

児童相談所が関与した事例における児童相談所による最終安全確認を行っていた時期について、心中以外の虐待死事例では、安全確認を行った時期が「死亡前の１週間～１か月未満」が５人（33.3%）、「死亡前の１か月～３か月未満」「死亡前の半年以上」がいずれも４人（26.7%）であった。

表 45　児童相談所による最終安全確認の時期

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
死亡前の1週間未満	1(0)	6.7%	0(0)	－
死亡前の1週間～1か月未満	5(4)	33.3%	0(0)	－
死亡前の1か月～3か月未満	4(2)	26.7%	0(0)	－
死亡前の3か月～半年未満	1(1)	6.7%	0(0)	－
死亡前の半年以上	4(2)	26.7%	0(0)	－
計	15(9)	100.0%	0(0)	－

キ　児童相談所による安全確認方法

児童相談所が関与した事例における児童相談所による安全確認方法について、心中以外の虐待死事例では、「不定期に訪問し安全確認」が３人（20.0%）、「不定期に電話にて安全確認」「定期的に訪問し安全確認」がいずれも２人（13.3%）、「その他」が 8 人（53.3%）であった。「その他」には、「通告受付時の間接現認」「関係機関による確認」等があった。

表 46　児童相談所による安全確認方法

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
不定期に電話にて安全確認	2(1)	13.3%	0(0)	－
不定期に訪問し安全確認	3(2)	20.0%	0(0)	－
定期的に電話にて安全確認	0(0)	0.0%	0(0)	－
定期的に訪問し安全確認	2(1)	13.3%	0(0)	－
その他	8(5)	53.3%	0(0)	－
計	15(9)	100.0%	0(0)	－

③ 市区町村(虐待対応担当部署)の関与

ア 市区町村（虐待対応担当部署）の関与状況

市区町村（虐待対応担当部署）の関与状況について、心中以外の虐待死事例では、関与「あり」が17人（35.4%)、「なし」が23人（47.9%）であった。

また、心中による虐待死事例では、関与「あり」が1人（5.9%)、「なし」が15人（88.2%）であった。

表47　市区町村（虐待対応担当部署）の関与状況（心中以外の虐待死）

区分		第5次から第20次まで	第21次	総数(第5次から第21次まで)
あり	人数	216(58)	17(11)	233(69)
	構成割合	25.3%	35.4%	25.9%
なし	人数	609(107)	23(5)	632(112)
	構成割合	71.4%	47.9%	70.1%
不明	人数	28(4)	8(2)	36(6)
	構成割合	3.3%	16.7%	4.0%
計	人数	853(169)	48(18)	901(187)
	構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

表48　市区町村（虐待対応担当部署）の関与状況（心中による虐待死）

区分		第5次から第20次まで	第21次	総数(第5次から第21次まで)
あり	人数	81(2)	1(0)	82(2)
	構成割合	15.2%	5.9%	14.9%
なし	人数	376(9)	15(0)	391(9)
	構成割合	70.7%	88.2%	71.2%
不明	人数	75(1)	1(1)	76(2)
	構成割合	14.1%	5.9%	13.8%
計	人数	532(12)	17(1)	549(13)
	構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

イ　市区町村（虐待対応担当部署）における相談種別

市区町村（虐待対応担当部署）が関与した事例における相談種別について、心中以外の虐待死事例では、「虐待相談」が 12 人（70.6%）と最も多く、次いで「虐待以外の養護相談」が５人（29.4%）であった。

表 49　市区町村（虐待対応担当部署）における相談種別（複数回答）

区分	第5次から第 20 次まで				第 21 次				総数（第5次から第 21 次まで）			
	心中以外の虐待死［216 人］		心中による虐待死［81 人］		心中以外の虐待死［17 人］		心中による虐待死［1 人］		心中以外の虐待死［233 人］		心中による虐待死［82 人］	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
虐待相談	128(34)	59.3%	35(0)	43.2%	12(8)	70.6%	0(0)	0.0%	140(42)	60.1%	35(0)	42.7%
虐待以外の養護相談	24(12)	11.1%	17(0)	21.0%	5(3)	29.4%	1(0)	100.0%	29(15)	12.4%	18(0)	22.0%
障害相談	53(11)	24.5%	31(0)	38.3%	1(1)	5.9%	0(0)	0.0%	54(12)	23.2%	31(0)	37.8%
非行相談	0(0)	0.0%	2(0)	2.5%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	2(0)	2.4%
育成相談	11(2)	5.1%	5(0)	6.2%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	11(2)	4.7%	5(0)	6.1%
保健相談	19(3)	8.8%	4(0)	4.9%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	19(3)	8.2%	4(0)	4.9%
その他	30(8)	13.9%	8(2)	9.9%	2(2)	11.8%	0(0)	0.0%	32(10)	13.7%	8(2)	9.8%

ウ　市区町村（虐待対応担当部署）の相談受付経路

市区町村（虐待対応担当部署）で関与した事例における相談受付経路について、心中以外の虐待死事例では、「児童相談所」が７人（41.2%）で最も多く、次いで「保育所・学校等」が４人（23.5%）であった。

心中による虐待死事例では、「保育所・学校等」が１人（100.0%）であった。

表 50　市区町村の相談受付経路（複数回答）

区分		心中以外の虐待死[17 人]		心中による虐待死[1 人]	
		人数	構成割合	人数	構成割合
児童家庭支援センター		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
母子生活支援施設		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
保育所・学校等		4(3)	23.5%	1(0)	100.0%
上記以外の児童福祉施設		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
児童相談所		7(6)	41.2%	0(0)	0.0%
配偶者暴力相談支援センター		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
福祉事務所		1(0)	5.9%	0(0)	0.0%
保健所・保健センター		3(3)	17.6%	0(0)	0.0%
子育て世代包括支援センター		1(1)	5.9%	0(0)	0.0%
市区町村子ども家庭総合支援拠点		2(1)	11.8%	0(0)	0.0%
上記以外の都道府県の部署・機関		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
上記以外の市区町村の部署・機関		3(1)	17.6%	0(0)	0.0%
警察		1(0)	5.9%	0(0)	0.0%
家庭裁判所		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
医療機関		2(1)	11.8%	0(0)	0.0%
内訳	産婦人科	1(0)	50.0%	0(0)	－
	小児科	0(0)	0.0%	0(0)	－
	内科	0(0)	0.0%	0(0)	－
	精神科	0(0)	0.0%	0(0)	－
	整形外科	0(0)	0.0%	0(0)	－
	脳神経外科	0(0)	0.0%	0(0)	－
	救急外来	0(0)	0.0%	0(0)	－
	歯科	1(1)	50.0%	0(0)	－
	その他	0(0)	0.0%	0(0)	－
	不明	0(0)	0.0%	0(0)	－
民生委員・児童委員		1(0)	5.9%	0(0)	0.0%
里親		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
民間団体		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
近隣住民・知人		1(1)	5.9%	0(0)	0.0%
家族・親戚		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
こども本人		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
その他		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%

④ 児童相談所と市区町村(虐待対応担当部署)の関与の状況

児童相談所と市区町村（虐待対応担当部署）の関与の状況について、心中以外の虐待死事例では、「児童相談所と市区町村（虐待対応担当部署）の両方が関与」があった事例が 14 人（29.2%）、「市区町村（虐待対応担当部署）のみ関与」があった事例が３人（6.3%）であった。

また、心中による虐待死事例では、「市区町村（虐待対応担当部署）のみ関与」があった事例が１人（5.9%）であった。

表 51　児童相談所と市区町村（虐待対応担当部署）の関与の状況

区分	第5次から第 20 次まで				第 21 次			
	心中以外の虐待死		心中による虐待死		心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
児童相談所のみ関与	64(17)	7.5%	34(1)	6.4%	1(0)	2.1%	0(0)	0.0%
市区町村(虐待対応担当部署)のみ関与	75(24)	8.8%	33(2)	6.2%	3(2)	6.3%	1(0)	5.9%
児童相談所と市区町村(虐待対応担当部署)の両方が関与	141(34)	16.5%	48(0)	9.0%	14(9)	29.2%	0(0)	0.0%
児童相談所と市区町村(虐待対応担当部署)ともに関与なし	545(90)	63.9%	341(8)	64.1%	22(5)	45.8%	15(0)	88.2%
不明 ※	28(4)	3.3%	76(1)	14.3%	8(2)	16.7%	1(1)	5.9%
計	853(169)	100.0%	532(12)	100.0%	48(18)	100.0%	17(1)	100.0%

区分	総数(第5次から第 21 次まで)			
	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
児童相談所のみ関与	65(17)	7.2%	34(1)	6.2%
市区町村(虐待対応担当部署)のみ関与	78(26)	8.7%	34(2)	6.2%
児童相談所と市区町村(虐待対応担当部署)の両方が関与	155(43)	17.2%	48(0)	8.7%
児童相談所と市区町村(虐待対応担当部署)ともに関与なし	567(95)	62.9%	356(8)	64.8%
不明 ※	36(6)	4.0%	77(2)	14.0%
計	901(187)	100.0%	549(13)	100.0%

※ 児童相談所もしくは市区町村(虐待対応担当部署)の関与状況が「不明」と回答した事例もしくは未記入であったもの

⑤ その他の関係機関の関与の状況

児童相談所と市区町村（虐待対応担当部署）を除いた、その他の関係機関の関与の状況について、心中以外の虐待死事例では、「市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）」は、関与があったものの虐待の認識を持たずに対応していた「関与はあったが虐待の認識なし」の事例が 10 人（20.8%）で他の機関と比較して多かった。また、虐待の認識がありながら関与していた「関与あり虐待の認識もあり」の事例についても 11 人（22.9%）で他の機関と比較して多かった。「医療機関」についても、「関与はあったが虐待の認識なし」が８人（16.7%）、「関与あり虐待の認識もあり」は７人（14.6%）で、「市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）」に次いで多かった。

心中による虐待死事例では、「関与はあったが虐待の認識なし」の事例が、「市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）」が 13 人（76.5%）、次いで「養育機関・教育機関」が８人（47.1%）であった。「関与あり虐待の認識もあり」の事例は、「養育機関・教育機関」が１人（5.9%）であった。

表 52　その他の関係機関の関与状況（心中以外の虐待死）※1

区分		第5次から第 20 次まで［853 人］			第 21 次［48 人］			総数（第5次から第 21 次まで）［901 人］		
		関与なし	関与はあったが虐待の認識なし	関与あり虐待の認識もあり	関与なし	関与はあったが虐待の認識なし	関与あり虐待の認識もあり	関与なし	関与はあったが虐待の認識なし	関与あり虐待の認識もあり
福祉事務所	人数	640(117)	108(25)	51(16)	31(12)	4(2)	3(2)	671(129)	112(27)	54(18)
	割合	75.0%	12.7%	6.0%	64.6%	8.3%	6.3%	74.5%	12.4%	6.0%
家庭児童相談室	人数	689(137)	53(11)	58(14)	30(11)	0(0)	7(3)	719(148)	53(11)	65(17)
	割合	80.8%	6.2%	6.8%	62.5%	0.0%	14.6%	79.8%	5.9%	7.2%
民生委員・児童委員	人数	675(129)	28(7)	19(0)	31(13)	2(1)	0(0)	706(142)	30(8)	19(0)
	割合	79.1%	3.3%	2.2%	64.6%	4.2%	0.0%	78.4%	3.3%	2.1%
保健所	人数	700(142)	59(8)	18(3)	26(13)	5(2)	0(0)	726(155)	64(10)	18(3)
	割合	82.1%	6.9%	2.1%	54.2%	10.4%	0.0%	80.6%	7.1%	2.0%
市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）	人数	344(59)	340(71)	114(34)	17(5)	10(4)	11(7)	361(64)	350(75)	125(41)
	割合	40.3%	39.9%	13.4%	35.4%	20.8%	22.9%	40.1%	38.8%	13.9%
養育機関・教育機関	人数	579(118)	138(24)	75(15)	7(2)	3(2)	5(3)	586(120)	141(26)	80(18)
	割合	67.9%	16.2%	8.8%	14.6%	6.3%	10.4%	65.0%	15.6%	8.9%
医療機関	人数	365(60)	242(51)	94(29)	17(7)	8(4)	7(4)	382(67)	250(55)	101(33)
	割合	42.8%	28.4%	11.0%	35.4%	16.7%	14.6%	42.4%	27.7%	11.2%
助産所※2	人数	654(131)	41(9)	7(1)	31(13)	0(0)	0(0)	685(144)	41(9)	7(1)
	割合	76.7%	4.8%	0.8%	64.6%	0.0%	0.0%	76.0%	4.6%	0.8%
警察	人数	689(145)	43(6)	53(11)	35(11)	2(2)	7(5)	724(156)	45(8)	60(16)
	割合	80.8%	5.0%	6.2%	72.9%	4.2%	14.6%	80.4%	5.0%	6.7%
女性相談支援センター※3	人数	566(143)	5(1)	10(2)	31(12)	0(0)	0(0)	597(155)	5(1)	10(2)
	割合	85.9%	0.8%	1.5%	64.6%	0.0%	0.0%	84.4%	0.7%	1.4%
配偶者暴力相談支援センター※4	人数	224(98)	2(1)	3(1)	32(13)	0(0)	0(0)	256(111)	2(1)	3(1)
	割合	84.2%	0.8%	1.1%	66.7%	0.0%	0.0%	81.5%	0.6%	1.0%

※1　関与状況が「不明」と回答した事例もしくは未記入であったものは記載を省略している
※2　第 20 次報告の「助産師」より名称変更
※3　第 20 次報告の「婦人相談所」より名称変更。第8次報告から調査。累計母数は 707 人
※4　第 16 次報告から調査。累計母数は 314 人

表 53　その他の関係機関の関与状況（心中による虐待死）※1

区分		第5次から第 20 次まで［532 人］			第 21 次［17 人］			総数（第5次から第 21 次まで）［549 人］		
		関与なし	関与はあったが虐待の認識なし	関与あり虐待の認識もあり	関与なし	関与はあったが虐待の認識なし	関与あり虐待の認識もあり	関与なし	関与はあったが虐待の認識なし	関与あり虐待の認識もあり
福祉事務所	人数	331(10)	89(1)	17(0)	11(0)	5(0)	0(0)	342(10)	94(1)	17(0)
	割合	62.2%	16.7%	3.2%	64.7%	29.4%	0.0%	62.3%	17.1%	3.1%
家庭児童相談室	人数	377(9)	38(0)	26(2)	16(0)	0(0)	0(0)	393(9)	38(0)	26(2)
	割合	70.9%	7.1%	4.9%	94.1%	0.0%	0.0%	71.6%	6.9%	4.7%
民生委員・児童委員	人数	357(11)	18(0)	3(0)	8(0)	0(0)	0(0)	365(11)	18(0)	3(0)
	割合	67.1%	3.4%	0.6%	47.1%	0.0%	0.0%	66.5%	3.3%	0.5%
保健所	人数	392(8)	30(3)	6(0)	8(0)	2(0)	0(0)	400(8)	32(3)	6(0)
	割合	73.7%	5.6%	1.1%	47.1%	11.8%	0.0%	72.9%	5.8%	1.1%
市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）	人数	185(6)	230(3)	20(2)	3(0)	13(0)	0(0)	188(6)	243(3)	20(2)
	割合	34.8%	43.2%	3.8%	17.6%	76.5%	0.0%	34.2%	44.3%	3.6%
養育機関・教育機関	人数	192(5)	201(6)	29(0)	2(0)	8(0)	1(0)	194(5)	209(6)	30(0)
	割合	36.1%	37.8%	5.5%	11.8%	47.1%	5.9%	35.3%	38.1%	5.5%
医療機関	人数	178(5)	141(3)	11(2)	4(0)	4(0)	0(0)	182(5)	145(3)	11(2)
	割合	33.5%	26.5%	2.1%	23.5%	23.5%	0.0%	33.2%	26.4%	2.0%
助産所※2	人数	327(10)	23(0)	0(0)	8(0)	0(0)	0(0)	335(10)	23(0)	0(0)
	割合	61.5%	4.3%	0.0%	47.1%	0.0%	0.0%	61.0%	4.2%	0.0%
警察	人数	367(11)	18(0)	30(0)	16(1)	1(0)	0(0)	383(12)	19(0)	30(0)
	割合	69.0%	3.4%	5.6%	94.1%	5.9%	0.0%	69.8%	3.5%	5.5%
女性相談支援センター※3	人数	284(9)	2(0)	3(0)	10(0)	0(0)	0(0)	294(9)	2(0)	3(0)
	割合	77.2%	0.5%	0.8%	58.8%	0.0%	0.0%	76.4%	0.5%	0.8%
配偶者暴力相談支援センター※4	人数	81(7)	1(0)	1(0)	12(0)	0(0)	0(0)	93(7)	1(0)	1(0)
	割合	75.0%	0.9%	0.9%	70.6%	0.0%	0.0%	74.4%	0.8%	0.8%

※1　関与状況が「不明」と回答した事例もしくは未記入であったものは記載を省略している
※2　第 20 次報告の「助産師」より変更
※3　第 20 次報告の「婦人相談所」より名称変更。第8次報告から調査。累計母数は 385 人
※4　第 16 次報告から調査。累計母数は 125 人

⑥ 児童相談所及び関係機関の関与状況

児童相談所及び関係機関の関与状況について、心中以外の虐待死事例では「関係機関と全く接点を持ちえなかった」が 19 人（39.6%）と最も多く、次いで「児童相談所が関わっていた」が 15 人（31.3%）であった。

また、心中による虐待死事例についても、「関係機関との接点はあったが、虐待や虐待の可能性を認識していなかった」が 13 人（76.5%）と最も多く、次いで「関係機関と全く接点を持ちえなかった」が３人（17.6%）であった。

第５次報告から第 21 次報告までの総数でみると、「関係機関との接点はあったが、虐待や虐待の可能性を認識していなかった」が多い。

表 54　児童相談所及び関係機関の関与状況（心中以外の虐待死）

区分		第5次から第 20 次まで	第 21 次	総数（第5次から第 21 次まで）
児童相談所が関わっていた（虐待以外の養護相談などで関わっていた事例を含む）	人数	205(51)	15(9)	220(60)
	構成割合	24.0%	31.3%	24.4%
関係機関が虐待や虐待の可能性を認識していたが児童相談所が関わっていなかった	人数	53(14)	1(1)	54(15)
	構成割合	6.2%	2.1%	6.0%
関係機関との接点はあったが、虐待や虐待の可能性を認識していなかった	人数	324(62)	9(4)	333(66)
	構成割合	38.0%	18.8%	37.0%
関係機関と全く接点を持ちえなかった	人数	241(37)	19(4)	260(41)
	構成割合	28.3%	39.6%	28.9%
関係機関の関与不明	人数	30(5)	4(0)	34(5)
	構成割合	3.5%	8.3%	3.8%
計	人数	853(169)	48(18)	901(187)
	構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

表 55　児童相談所及び関係機関の関与状況（心中による虐待死）

区分		第5次から第 20 次まで	第 21 次	総数（第5次から第 21 次まで）
児童相談所が関わっていた（虐待以外の養護相談などで関わっていた事例を含む）	人数	83(1)	0(0)	83(1)
	構成割合	15.6%	0.0%	15.1%
関係機関が虐待や虐待の可能性を認識していたが児童相談所が関わっていなかった	人数	15(2)	1(0)	16(2)
	構成割合	2.8%	5.9%	2.9%
関係機関との接点はあったが、虐待や虐待の可能性を認識していなかった	人数	285(7)	13(0)	298(7)
	構成割合	53.6%	76.5%	54.3%
関係機関と全く接点を持ちえなかった	人数	75(1)	3(1)	78(2)
	構成割合	14.1%	17.6%	14.2%
関係機関の関与不明	人数	74(1)	0(0)	74(1)
	構成割合	13.9%	0.0%	13.5%
計	人数	532(12)	17(1)	549(13)
	構成割合	100.0%	100.0%	100.0%

⑦ 関係機関間の連携状況

関係機関間の連携状況について、心中以外の虐待死事例で、関係機関間の連携が「なし」が 25 人（有効割合 56.8%）、「あり」が 19 人（同 43.2%）であった。連携があった事例における連携の状況については、「よく取れていた」が11人（同25.0%）と最も多く、次いで「まあまあ取れていた」「あまり取れていなかった」がともに４人（同 9.1%）であった。

また、心中による虐待死事例では、関係機関間の連携が「なし」が 12 人（同 85.7%）、「あり」が２人（同 14.3%）であった。連携があった事例における連携の状況については、「まあまあ取れていた」が２人（同 14.3%）であった。

表 56　関係機関間の連携状況

区分		心中以外の虐待死			心中による虐待死		
		人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
なし		25(6)	52.1%	56.8%	12(0)	70.6%	85.7%
あり		19(12)	39.6%	43.2%	2(0)	11.8%	14.3%
内訳	よく取れていた	11(9)	22.9%	25.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	まあまあ取れていた	4(2)	8.3%	9.1%	2(0)	11.8%	14.3%
	あまり取れていなかった	4(1)	8.3%	9.1%	0(0)	0.0%	0.0%
	ほとんど取れていなかった	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
小計		44(18)	91.7%	100.0%	14(0)	82.4%	100.0%
不明		3(0)	6.3%		3(1)	17.6%	
無回答		1(0)	2.1%		0(0)	0.0%	
計		48(18)	100.0%	－	17(1)	100.0%	－

⑧ 関係機関間の情報提供（通告を除く）

関係機関間の通告を除く情報提供について、心中以外の虐待死事例で、関係機関から児童相談所へ情報提供のあったのは８人（16.7%）で、このうち「市区町村（虐待対応担当部署）」が５人（10.4%）で最も多かった。また、関係機関から市区町村（虐待対応担当部署）へ情報提供があったのは13人（27.1%）で、「保健所・保健センター」が６人（12.5%）、「保育所・学校等」「児童相談所」がそれぞれ５人（10.4%）であった。さらに、関係機関から市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）へ情報提供があったのは、10 人（20.8%）で、このうち「市区町村（虐待対応担当部署）」「市区町村子ども家庭総合支援拠点」がそれぞれ４人（8.3%）、「児童相談所」が３人（6.3%）であった。

心中による虐待死事例で、関係機関から児童相談所へ情報提供があったのは１人（5.9%）で、このうち「子育て世代包括支援センター」「市区町村子ども家庭総合支援拠点」「警察」がそれぞれ１人（5.9%）であった。また、関係機関から市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）へ情報提供があったのは１人（5.9%）で、「保健所・保健センター」からであった。

表 57　関係機関から児童相談所への情報提供（通告を除く）

区分		心中以外の虐待死		心中による虐待死	
		人数	構成割合	人数	構成割合
なし		37(14)	77.1%	15(0)	88.2%
あり		8(4)	16.7%	1(0)	5.9%
内訳（複数回答）	児童家庭支援センター	1(0)	2.1%	0(0)	0.0%
	母子生活支援施設	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	保育所・学校等	2(0)	4.2%	0(0)	0.0%
	上記以外の児童福祉施設	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	他の児童相談所	2(1)	4.2%	0(0)	0.0%
	配偶者暴力相談支援センター	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	福祉事務所	1(0)	2.1%	0(0)	0.0%
	市区町村（虐待対応担当部署）	5(1)	10.4%	0(0)	0.0%
	保健所・保健センター	3(1)	6.3%	0(0)	0.0%
	子育て世代包括支援センター	0(0)	0.0%	1(0)	5.9%
	市区町村子ども家庭総合支援拠点	1(1)	2.1%	1(0)	5.9%
	警察	1(1)	2.1%	1(0)	5.9%
	検察	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	医療機関	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	民生委員・児童委員	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	その他	1(0)	2.1%	0(0)	0.0%
不明		3(0)	6.3%	1(1)	5.9%
計		48(18)	100.0%	17(1)	100.0%

表 58　関係機関から市区町村（虐待対応担当部署）への情報提供（通告を除く）

区分		心中以外の虐待死		心中による虐待死	
		人数	構成割合	人数	構成割合
なし		33(9)	68.8%	16(0)	94.1%
あり		13(9)	27.1%	0(0)	0.0%
内訳（複数回答）	児童家庭支援センター	1(0)	2.1%	0(0)	－
	母子生活支援施設	0(0)	0.0%	0(0)	－
	保育所・学校等	5(3)	10.4%	0(0)	－
	上記以外の児童福祉施設	0(0)	0.0%	0(0)	－
	児童相談所	5(2)	10.4%	0(0)	－
	配偶者暴力相談支援センター	0(0)	0.0%	0(0)	－
	福祉事務所	4(2)	8.3%	0(0)	－
	保健所・保健センター	6(4)	12.5%	0(0)	－
	子育て世代包括支援センター	3(1)	6.3%	0(0)	－
	市区町村子ども家庭総合支援拠点	1(0)	2.1%	0(0)	－
	警察	1(0)	2.1%	0(0)	－
	検察	0(0)	0.0%	0(0)	－
	医療機関	1(1)	2.1%	0(0)	－
	民生委員・児童委員	0(0)	0.0%	0(0)	－
	その他	2(1)	4.2%	0(0)	－
不明		2(0)	4.2%	1(1)	5.9%
計		48(18)	100.0%	17(1)	100.0%

表 59　関係機関から市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）への情報提供（通告を除く）

区分		心中以外の虐待死		心中による虐待死	
		人数	構成割合	人数	構成割合
なし		36(13)	75.0%	15(0)	88.2%
あり		10(5)	20.8%	1(0)	5.9%
内訳（複数回答）	児童家庭支援センター	2(1)	4.2%	0(0)	0.0%
	母子生活支援施設	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	保育所・学校等	2(0)	4.2%	0(0)	0.0%
	上記以外の児童福祉施設	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	児童相談所	3(0)	6.3%	0(0)	0.0%
	配偶者暴力相談支援センター	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	福祉事務所	1(0)	2.1%	0(0)	0.0%
	市区町村（虐待対応担当部署）	4(1)	8.3%	0(0)	0.0%
	保健所・保健センター	0(0)	0.0%	1(0)	5.9%
	子育て世代包括支援センター	1(0)	2.1%	0(0)	0.0%
	市区町村子ども家庭総合支援拠点	4(2)	8.3%	0(0)	0.0%
	警察	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	検察	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
	医療機関	2(1)	4.2%	0(0)	0.0%
	民生委員・児童委員	1(0)	2.1%	0(0)	0.0%
	その他	1(1)	2.1%	0(0)	0.0%
不明		2(0)	4.2%	1(1)	5.9%
計		48(18)	100.0%	17(1)	100.0%

(7)要保護児童対策地域協議会の活用状況

① 死亡事例が発生、又は表面化した地方公共団体における要保護児童対策地域協議会の活用状況及び関係機関の連携状況

死亡事例が発生、又は表面化した地方公共団体における要保護児童対策地域協議会の活用状況について、心中以外の虐待死事例では、「よく活用している」が 30 人（73.2%）、「ある程度活用している」が 11 人（26.8%）であった。心中による虐待死事例では、死亡事例が発生、又は表面化した全ての地方公共団体において要保護児童対策地域協議会が活用されていた。

また、要保護児童対策地域協議会の活用状況と関係機関の連携状況について、心中以外の虐待死事例では、本調査の検証対象となった事例（以下「当該事例」という。）における関係機関の連携状況が「連携なし」21 人のうち、要保護児童対策地域協議会を「よく活用している」が15人、「ある程度活用している」が６人であった。

心中による虐待死事例では、当該事例についての関係機関の連携状況が「連携なし」12 人のうち、要保護児童対策地域協議会を「よく活用している」が４人、「ある程度活用している」が８人であった。

表 60　死亡事例が発生、又は表面化した地方公共団体における要保護児童対策地域協議会の活用状況　※

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
よく活用している	30(12)	73.2%	5(0)	31.3%
ある程度活用している	11(5)	26.8%	11(0)	68.8%
あまり活用していない	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
ほとんど活用していない	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
不明	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
計	41(17)	100.0%	16(0)	100.0%

※ 要保護児童対策地域協議会未設置自治体が2自治体、設置「不明」の自治体が4自治体あるため、心中以外の虐待死の人数は 41 人、心中による虐待死の人数は 16 人

表 61　要保護児童対策地域協議会の活用状況と当該事例における関係機関の連携状況（心中以外の虐待死）※

（単位：人）

区分	関係機関の連携なし	関係機関の連携あり					不明	計
		よく取れていた	まあまあ取れていた	あまり取れていなかった	ほとんど取れていなかった	小計		
よく活用している	15(4)	8(7)	3(1)	2(0)	0(0)	13(8)	2(0)	30(12)
ある程度活用している	6(2)	3(2)	1(1)	1(0)	0(0)	5(3)	0(0)	11(5)
あまり活用していない	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
ほとんど活用していない	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	21(6)	11(9)	4(2)	3(0)	0(0)	18(11)	2(0)	41(17)

※　要保護児童対策地域協議会未設置自治体が２自治体、設置「不明」の自治体が３自治体あるため、心中以外の虐待死の人数は 41 人

表 62　要保護児童対策地域協議会の活用状況と当該事例における関係機関の連携状況（心中による虐待死）※

（単位：人）

区分	関係機関の連携なし	関係機関の連携あり					不明	計
		よく取れていた	まあまあ取れていた	あまり取れていなかった	ほとんど取れていなかった	小計		
よく活用している	4(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	5(0)
ある程度活用している	8(0)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	2(0)	11(0)
あまり活用していない	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
ほとんど活用していない	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	12(0)	0(0)	2(0)	0(0)	0(0)	2(0)	2(0)	16(0)

※　要保護児童対策地域協議会設置「不明」の自治体が1自治体あるため、心中による虐待死の人数は 16 人

② 要保護児童対策地域協議会における当該事例の検討状況

要保護児童対策地域協議会における当該事例の検討状況については、心中以外の虐待死事例では、検討「あり」が10人（24.4%）、「なし」が31人（75.6%）で、７割以上の事例で検討がなされていなかった。検討「あり」の事例のうち、「実務者会議」で検討されていた事例は８人（19.5%）、「個別ケース検討会議」で検討されていた事例は６人（14.6%）であった。また、「要保護児童」として扱われていた事例は７人（17.1%）であった。

心中による虐待死事例では、要保護児童対策地域協議会で検討「なし」の事例は16人（100.0%）で、全ての事例で検討がなされてなかった。

表63　要保護児童対策地域協議会における当該事例についての検討状況　※

区分		心中以外の虐待死		心中による虐待死	
		人数	構成割合	人数	構成割合
あり		10(6)	24.4%	0(0)	0.0%
内訳（複数回答）	代表者会議	0(0)	0.0%	0(0)	－
	実務者会議	8(5)	19.5%	0(0)	－
	個別ケース検討会議	6(4)	14.6%	0(0)	－
	その他	0(0)	0.0%	0(0)	－
なし		31(11)	75.6%	16(0)	100.0%
不明		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
計		41(17)	100.0%	16(0)	100.0%

※ 要保護児童対策地域協議会未設置自治体が2自治体、無回答の自治体が4自治体あるため、心中以外の虐待死の人数は41人、心中による虐待死の人数は16人

表64　要保護児童対策地域協議会における当該事例についての取扱い状況　※

区分		心中以外の虐待死		心中による虐待死	
		人数	構成割合	人数	構成割合
あり		10(6)	24.4%	0(0)	0.0%
内訳（複数回答）	要保護児童	7(4)	17.1%	0(0)	－
	要支援児童	2(2)	4.9%	0(0)	－
	特定妊婦	0(0)	0.0%	0(0)	－
	その他	1(0)	2.4%	0(0)	－
なし		31(11)	75.6%	16(0)	100.0%
不明		0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
計		41(17)	100.0%	16(0)	100.0%

※ 要保護児童対策地域協議会未設置自治体が2自治体、無回答の自治体が4自治体あるため、心中以外の虐待死の人数は41人、心中による虐待死の人数は16人

(8)こどもの死亡後の対応状況

① 当該事例に関する行政機関内部による検証の実施状況

当該事例に関する行政機関内部による検証の実施状況について、心中以外の虐待死事例では、検証を「実施していない」が 42 人（87.5%）、「実施した」が５人（10.4%）、「実施中」が１人（2.1%）であり、検証を実施している事例は１割強であった。

心中による虐待死事例については、検証を「実施していない」が15人（88.2%）、「実施した」が２人（11.8%）であった。

表 65　当該事例に関する行政機関内部による検証の実施状況

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
実施していない	42(16)	87.5%	15(1)	88.2%
実施した	5(2)	10.4%	2(0)	11.8%
実施中	1(0)	2.1%	0(0)	0.0%
計	48(18)	100.0%	17(1)	100.0%

② 当該事例に関する第三者による検証の実施状況

当該事例に関する第三者による検証の実施状況について、心中以外の虐待死事例では、検証を「実施していない」が38人（79.2%）、「実施した」「実施中」がともに５人（10.4%）であり、検証を実施している事例は全体の約２割であった。

心中による虐待死事例では、検証を「実施していない」が 14 人（82.4%）、「実施中」が３人（17.6%）であった。

表 66　当該事例に関する第三者による検証の実施状況

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
実施していない	38(16)	79.2%	14(1)	82.4%
実施した	5(2)	10.4%	0(0)	0.0%
実施中	5(0)	10.4%	3(0)	17.6%
計	48(18)	100.0%	17(1)	100.0%

（9）0日・0か月児の死亡事例（心中以外の虐待死）

生後24時間に満たないで死亡したと考えられる日齢０日児の死亡事例（以下「０日児」という。）と、日齢１日以上月齢１か月未満児の死亡事例（以下「０か月児」という。）を合わせた０日・０か月児の心中以外の虐待死事例（以下「０日・０か月児事例」という。）が０歳児の死亡事例の中でも一定の割合を占めていることを踏まえ、以下にとりまとめた。なお、第21次報告として集計しているのは、こども家庭庁が、都道府県等に対する調査により把握した、令和５年４月から令和６年３月までの１年間（第 21 次報告の対象期間）に発生、又は表面化した児童虐待による死亡事例である。

① 0歳児及び0日・0か月児事例の発生状況

０歳児の心中以外の虐待死事例は 33 人で、本調査の検証対象になった事例の７割弱を占めている。

また、０歳児の死亡事例のうち、０日児は 16 人、０か月児は２人であった。

表 67　０歳児の死亡人数の推移（心中以外の虐待死）

区分	第1次から第 20 次まで	第 21 次	総数(第1次から第 21 次まで)
人数(人)	504(86)	33(13)	537(99)
割合 ※	48.2%	68.8%	49.1%

※各年次報告における心中以外の虐待死事例に占める0歳児の割合

表 68　０日・０か月児事例における死亡人数の推移（心中以外の虐待死）と０歳児の心中以外の虐待死事例における割合

（単位：人）

区分	第1次から第 20 次まで	第 21 次	総数(第1次から第 21 次まで)
0 日	185(19)	16(4)	201(23)
0 か月	43(9)	2(0)	45(9)
総数	228(28)	18(4)	246(32)
構成割合	45.2%	54.5%	45.8%
0 歳	504(86)	33(13)	537(99)

表 69　０日・０か月児事例における日齢別死亡人数（心中以外の虐待死）

区分	人数
0日	16(4)
1～9日	0(0)
10 日以上	1(0)
不明	1(0)
計	18(4)

② 主たる加害者

０日・０か月児事例における虐待を行った主たる加害者は、０日児、０か月児ともに「実母」が最も多かった。また、第１次報告から第 21 次報告までの総数でみても、「実母」が主たる加害者であった事例は 205 人（83.3%）で最も多い。

表 70　０日・０か月児事例における主たる加害者（心中以外の虐待死）　（単位：人）

区分	第1次から第 20 次まで				第 21 次				総数（第1次から第 21 次まで）					
	0日児		0か月児		0日児		0か月児		0日児		0か月児		計	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
実母	161(12)	87.0%	33(5)	76.7%	10(1)	62.5%	1(0)	50.0%	171(13)	85.1%	34(5)	75.6%	205(18)	83.3%
実父	1(0)	0.5%	2(0)	4.7%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	1(0)	0.5%	2(0)	4.4%	3(0)	1.2%
実母・実父	10(2)	5.4%	5(1)	11.6%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	10(2)	5.0%	5(1)	11.1%	15(3)	6.1%
その他	4(2)	2.2%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	4(2)	2.0%	0(0)	0.0%	4(2)	1.6%
不明	9(3)	4.9%	3(3)	7.0%	6(3)	37.5%	1(0)	50.0%	15(6)	7.5%	4(3)	8.9%	19(9)	7.7%
計	185(19)	100.0%	43(9)	100.0%	16(4)	100.0%	2(0)	100.0%	201(23)	100.0%	45(9)	100.0%	246(32)	100.0%

③ 死因となった虐待の類型

０日・０か月児事例における死因となった虐待の類型は、０日児は、「身体的虐待」が７人（43.8%）、「ネグレクト」が８人（50.0%）と「不明」が１人（6.3%）、０か月児は、「身体的虐待」「ネグレクト」がともに１人（50.0%）であった。

表 71　０日・０か月児事例における死因となった虐待の類型（心中以外の虐待死）

区分	第7次から第 20 次まで				第 21 次				総数（第7次から第 21 次まで）			
	0日児		0か月児		0日児		0か月児		0日児		0か月児	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
身体的虐待	46(3)	37.1%	16(0)	47.1%	7(1)	43.8%	1(0)	50.0%	53(4)	37.9%	17(0)	47.2%
ネグレクト	56(8)	45.2%	10(2)	29.4%	8(2)	50.0%	1(0)	50.0%	64(10)	45.7%	11(2)	30.6%
不明	22(8)	17.7%	8(7)	23.5%	1(1)	6.3%	0(0)	0.0%	23(9)	16.4%	8(7)	22.2%
計	124(19)	100.0%	34(9)	100.0%	16(4)	100.0%	2(0)	100.0%	140(23)	100.0%	36(9)	100.0%

④ 直接の死因

０日・０か月児事例における直接の死因について、第１次報告から第 21 次報告までの総数をみると、「不明」が最も多く、次いで「窒息（絞殺以外）」が多かった。

表 72　０日・０か月児事例における直接の死因（心中以外の虐待死）

区分	第1次から第 20 次まで						第 21 次					
	0日児			0か月児			0日児			0か月児		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
出生後、放置	29 (2)	15.7%	23.2%	6 (1)	14.0%	20.0%	7 (2)	43.8%	58.3%	0 (0)	0.0%	0.0%
窒息（絞殺以外）	55 (2)	29.7%	44.0%	13 (1)	30.2%	43.3%	4 (0)	25.0%	33.3%	1 (0)	50.0%	50.0%
絞殺	10 (0)	5.4%	8.0%	5 (0)	11.6%	16.7%	0 (0)	0.0%	0.0%	0 (0)	0.0%	0.0%
その他	31 (4)	16.8%	24.8%	6 (1)	14.0%	20.0%	1 (0)	6.3%	8.3%	1 (0)	50.0%	50.0%
不明	60 (11)	32.4%		13 (6)	30.2%		4 (2)	25.0%		0 (0)	0.0%	
計	185 (19)	100.0%	－	43 (9)	100.0%	－	16 (4)	100.0%	－	2 (0)	100.0%	－

区分	総数（第1次から第 21 次まで）								
	0日児			0か月児			計		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
出生後、放置	36 (4)	17.9%	26.3%	6 (1)	13.3%	18.8%	42 (5)	17.1%	24.9%
窒息（絞殺以外）	59 (2)	29.4%	43.1%	14 (1)	31.1%	43.8%	73 (3)	29.7%	43.2%
絞殺	10 (0)	5.0%	7.3%	5 (0)	11.1%	15.6%	15 (0)	6.1%	8.9%
その他	32 (4)	15.9%	23.4%	7 (1)	15.6%	21.9%	39 (5)	15.9%	23.1%
不明	64 (13)	31.8%		13 (6)	28.9%		77 (19)	31.3%	
計	201 (23)	100.0%	－	45 (9)	100.0%	－	246 (32)	100.0%	－

⑤ 事例が発覚した経緯

０日・０か月児事例における発覚した経緯は、０日児で「その他」が 10 人（62.5%）、「近隣住民・知人が遺体を発見」が４人（25.0%）、「家族その他の同居者が遺体を発見」が２人（12.5%）、であった。０か月児で「その他」が２人（100.0%）であった。

「その他」としては、「母本人が児の遺体を抱えて出頭」「ホテルの男性従業員が発見」「通りがかりの女性が発見」「釣りに来ていた人が発見」「別件での逮捕により発覚」「警察の捜査により事件が発覚」などがあった。

表 73　０日・０か月児事例における発覚した経緯（心中以外の虐待死）

区分	0日児		0か月児	
	人数	構成割合	人数	構成割合
近隣住民・知人が遺体を発見	4(1)	25.0%	0(0)	0.0%
家族その他の同居者が遺体を発見	2(0)	12.5%	0(0)	0.0%
その他	10(3)	62.5%	2(0)	100.0%
計	16(4)	100.0%	2(0)	100.0%

⑥ 「遺棄あり」の死亡につながった虐待の類型

０日・０か月事例において、妊娠期・周産期の問題にて「遺棄あり」の０日児は 15 人であり、そのうち死因となった虐待の類型が「ネグレクト（遺棄）」「身体的虐待」それぞれ７人であった。また、妊娠期・周産期の問題にて「遺棄あり」の０か月児は２人であった。

表 74　０日・０か月児事例における「遺棄あり」の死亡につながった虐待の類型（心中以外の虐待死）

区分	0日児		0か月児		計	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
妊娠期・周産期の問題にて遺棄あり	15(3)	93.8%	2(0)	100.0%	17(3)	94.4%
ネグレクト（遺棄）	7(1)	43.8%	1(0)	50.0%	8(1)	44.4%
身体的虐待	7(1)	43.8%	1(0)	50.0%	8(1)	44.4%
心理的虐待	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
性的虐待	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
不明	1(1)	6.3%	0(0)	0.0%	1(1)	5.6%

⑦ 遺棄された場所

０日・０か月児事例において、妊娠期・周産期の問題にて「遺棄あり」の０日児が遺棄された場所は「自宅」が４人、「自宅外」が 11 人であった。０か月児は、「自宅」「自宅外」がそれぞれ１人であった。

表 75　０日・０か月児事例における遺棄された場所（心中以外の虐待死）

区分	第1次から第 20 次まで ※				第 21 次			
	0日児		0か月児		0日児		0か月児	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
遺棄なし	12 (0)	6.5%	22 (3)	51.2%	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
遺棄あり	170 (19)	91.9%	20 (5)	46.5%	15(3)	93.8%	2(0)	100.0%
自宅	82 (9)	44.3%	7 (0)	16.3%	4(0)	25.0%	1(0)	50.0%
自宅外	88 (10)	47.6%	13 (5)	30.2%	11(3)	68.8%	1(0)	50.0%
不明	3 (0)	1.6%	1 (1)	2.3%	1(1)	6.3%	0(0)	0.0%
計	185 (19)	100.0%	43 (9)	100.0%	16(4)	100.0%	2(0)	100.0%

区分	総数（第1次から 21 次まで）					
	0日児		0か月児		計	
	人数	構成割合	人数	構成割合	人数	構成割合
遺棄なし	12 (0)	6.0%	22 (3)	48.9%	34 (3)	13.8%
遺棄あり	185 (22)	92.0%	22 (5)	48.9%	207 (27)	84.1%
自宅	86 (9)	42.8%	8 (0)	17.8%	94 (9)	38.2%
自宅外	99 (13)	49.3%	14 (5)	31.1%	113 (18)	45.9%
不明	4 (1)	2.0%	1 (1)	2.2%	5 (2)	2.0%
計	201 (23)	100.0%	45 (9)	100.0%	246 (32)	100.0%

※ 第1次報告から第 10 次報告までは個票の記述を確認して集計、第 11 次報告以降は調査項目として集計。

⑧ 遺棄事例における出産した場所

０日・０か月児事例における実母が本児を出産した場所について、０日児における「自宅」での出産及び「自宅外」での出産はそれぞれ 7 人（有効割合 50.0%）であった。また、０か月児において、「自宅」での出産は１人（同 100.0%）であった。

表 76　０日・０か月児遺棄事例における出産した場所（心中以外の虐待死）※1

区分	第 21 次					
	0日児			0か月児		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
自宅 ※2	7 (1)	46.7%	50.0%	1 (0)	50.0%	100.0%
自宅外	7 (2)	46.7%	50.0%	0 (0)	0.0%	0.0%
医療機関	0 (0)	0.0%	0.0%	0 (0)	0.0%	0.0%
不明	1 (0)	6.7%		1 (0)	50.0%	
計	15 (3)	100.0%	－	2 (0)	100.0%	－

※1　妊娠期・周産期の問題にて「遺棄あり」の場合のみ回答
※2 「自宅」とは、専門家による介助がない自宅分娩のこと

表 77　０日・０か月児遺棄事例における自宅内での出産場所（心中以外の虐待死）※

区分	第 21 次			
	0日児		0か月児	
	人数	構成割合	人数	構成割合
トイレ	1 (1)	14.3%	0 (0)	0.0%
風呂場	0 (0)	0.0%	0 (0)	0.0%
その他	3 (0)	42.9%	1 (0)	100.0%
不明	3 (0)	42.9%	0 (0)	0.0%
計	7 (1)	100.0%	1 (0)	100.0%

※　妊娠期・周産期の問題にて「遺棄あり」、かつ「自宅分娩」の場合のみ回答

⑨ 養育者の状況

ア 実母の年齢

０日・０か月児事例における実母の年齢は、０日児は「19 歳以下」が３人（有効割合 18.8%）、「20～24 歳」が５人（同 31.3%）、「25～29 歳」が２人（同 12.5%）、「30～34 歳」が３人（同 18.8%）であった。

また、第１次報告から第 21 次報告までの総数でみると、実母の年齢は、０日児では、「19 歳以下」が 54 人（同 27.4%）と最も多く、０か月児では、「35～39 歳」が 12 人（同 27.9%）と最も多かった。

表 78　０日・０か月児事例における実母の年齢（心中以外の虐待死）

区分	第1次から第 20 次まで						第 21 次					
	0日児			0か月児			0日児			0か月児		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
19歳以下	51(6)	27.6%	28.2%	5(0)	11.6%	11.9%	3(1)	18.8%	18.8%	0(0)	0.0%	0.0%
20～24歳	39(2)	21.1%	21.5%	9(4)	20.9%	21.4%	5(2)	31.3%	31.3%	0(0)	0.0%	0.0%
25～29歳	28(4)	15.1%	15.5%	7(3)	16.3%	16.7%	2(1)	12.5%	12.5%	0(0)	0.0%	0.0%
30～34歳	28(4)	15.1%	15.5%	9(1)	20.9%	21.4%	3(0)	18.8%	18.8%	1(0)	100.0%	100.0%
35～39歳	22(2)	11.9%	12.2%	12(0)	27.9%	28.6%	3(0)	18.8%	18.8%	0(0)	0.0%	0.0%
40歳以上	13(0)	7.0%	7.2%	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
不明	4(1)	2.2%		1(1)	2.3%		0(0)	0.0%		0(0)	0.0%	
計	185(19)	100.0%	－	43(9)	100.0%	－	16(4)	100.0%	－	1(0)	100.0%	－

区分	総数（第1次から第 21 次まで）								
	0日児			0か月児			計		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
19歳以下	54(7)	26.9%	27.4%	5(0)	11.4%	11.6%	59(7)	24.0%	24.6%
20～24歳	44(4)	21.9%	22.3%	9(4)	20.5%	20.9%	53(8)	21.5%	22.1%
25～29歳	30(5)	14.9%	15.2%	7(3)	15.9%	16.3%	37(8)	15.0%	15.4%
30～34歳	31(4)	15.4%	15.7%	10(1)	22.7%	23.3%	41(5)	16.7%	17.1%
35～39歳	25(2)	12.4%	12.7%	12(0)	27.3%	27.9%	37(2)	15.0%	15.4%
40歳以上	13(0)	6.5%	6.6%	0(0)	0.0%	0.0%	13(0)	5.3%	5.4%
不明	4(1)	2.0%		1(1)	2.3%		5(2)	2.0%	
計	201(23)	100.0%	－	44(9)	100.0%	－	245(32)	100.0%	－

※ 実母の有無について「いない」「不明」と回答した事例を除く

イ　家庭の状況

０日・０か月児事例における家庭の状況（同居の養育者の状況）について、０日児では、「ひとり親（未婚）」が５人（有効割合 83.3%）、「その他」が１人（同 16.7%）、「不明」が10人、０か月児では、「ひとり親（未婚）」が１人（同100.0%）、「不明」が１人であった。

また、０日・０か月児事例における祖父母の同居状況については、０日児では「同居なし」が３人（有効割合 60.0%）、「同居あり」が２人（同 40.0%）で、「母方祖母」「母方祖父母」がともに１人（同 20.0%）であった。０か月児では、「同居なし」が１人（同100.0%）、「不明」が１人であった。

表 79　０日・０か月児事例における同居の養育者の状況（心中以外の虐待死）

区分	0日児			0か月児		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
実父母	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
ひとり親（離婚）	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
ひとり親（未婚）	5(0)	31.3%	83.3%	1(0)	50.0%	100.0%
ひとり親（死別）	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
ひとり親（別居）	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
内縁関係（交際相手を含む）	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
実父母のいずれかとその再婚者	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
養父母	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
その他	1(0)	6.3%	16.7%	0(0)	0.0%	0.0%
不明	10(4)	62.5%		1(0)	50.0%	
計	16(4)	100.0%	－	2(0)	100.0%	－

表 80　０日・０か月児事例における祖父母との同居状況（心中以外の虐待死）

区分		0日児			0か月児		
		人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
同居なし		3(0)	18.8%	60.0%	1(0)	50.0%	100.0%
同居あり		2(0)	12.5%	40.0%	0(0)	0.0%	0.0%
	母方祖母	1(0)	6.3%	20.0%	0(0)	－	－
	母方祖父	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	－	－
	母方祖父母	1(0)	6.3%	20.0%	0(0)	－	－
	父方祖母	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	－	－
	父方祖父	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	－	－
	父方祖父母	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	－	－
不明		11(4)	68.8%		1(0)	50.0%	
計		16(4)	100.0%	－	2(0)	100.0%	－

ウ　家庭の経済状態

０日・０か月児事例における家庭の経済状況について、当該世帯の家計を支えている主たる者は、０日児では「実母」「母方祖母」「母方祖父」がそれぞれ１人（有効割合 33.3%）、「不明」は 13 人であった。０か月児では、「不明」が２人であった。

０日児・０か月児事例における世帯収入の状況は、０日児では「市区町村民税非課税世帯（所得割、均等割ともに非課税）」「年収５００万円以上」がそれぞれ１人、「不明」が 14 人であった。０か月児では「不明」が２人であった。

０日児・０か月児事例における実母の就業状況は、０日児では「無職」「フルタイム」がともに２人、「パート」が１人、「不明」が 11 人であった。０か月児では「フルタイム」が１人であった。

表 81　０日・０か月児事例における家計を支えている主たる者（心中以外の虐待死）

区分	0日児			0か月児		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
実母	1(0)	6.3%	33.3%	0(0)	0.0%	－
実父	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
養母	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
養父	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
継母	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
継父	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
実母の交際相手	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
実父の交際相手	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
母方祖母	1(0)	6.3%	33.3%	0(0)	0.0%	－
父方祖母	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
母方祖父	1(0)	6.3%	33.3%	0(0)	0.0%	－
父方祖父	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
その他	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
不明	13(4)	81.3%		2(0)	100.0%	
計	16(4)	100.0%	－	2(0)	100.0%	－

表 82　０日・０か月児事例における世帯収入の状況（心中以外の虐待死）

区分	0日児			0か月児		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
生活保護世帯	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
市区町村民税非課税世帯 （所得割、均等割ともに非課税）	1(0)	6.3%	50.0%	0(0)	0.0%	－
市区町村民税課税世帯（所得割のみ非課税）	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
市区町村民税課税世帯（年収500万円未満）	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
年収500万円以上	1(0)	6.3%	50.0%	0(0)	0.0%	－
不明	14(4)	87.5%		2(0)	100.0%	
計	16(4)	100.0%	－	2(0)	100.0%	－

表 83　０日・０か月児事例における実母の就業状況（心中以外の虐待死）

区分	0日児			0か月児		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
無職	2(0)	12.5%	40.0%	0(0)	0.0%	0.0%
フルタイム	2(0)	12.5%	40.0%	1(0)	100.0%	100.0%
パート	1(0)	6.3%	20.0%	0(0)	0.0%	0.0%
不明	11(4)	68.8%		0(0)	0.0%	
計	16(4)	100.0%	－	1(0)	100.0%	－

※　実母の有無について「いない」「不明」と回答した事例を除く。

エ　妊娠期・周産期の問題

０日・０か月児事例における妊娠期・周産期の問題については、０日児では、「遺棄」が 15 人（93.8%）、「妊娠届の未提出（母子健康手帳の未交付）」が８人（50.0%）、「妊婦健康診査未受診」が７人（43.8%）、「予期しない妊娠／計画していない妊娠」が５人（31.3%）、「墜落分娩」が３人（18.8%）、「若年（10 代）妊娠」が２人（12.5%）であった。０か月児では、「遺棄」が２人（100.0%）、「予期しない妊娠／計画していない妊娠」「妊婦健康診査未受診」がそれぞれ１人（50.0%）であった。

表 84　０日・０か月児事例における妊娠期・周産期の問題（心中以外の虐待死）

区分	0日児[16 人]		0か月児[2人]	
	人数	構成割合	人数	構成割合
切迫流産・切迫早産	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
妊娠高血圧症候群	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
喫煙の常習	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
アルコールの常習	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
違法薬物の使用／薬物の過剰摂取等	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
マタニティブルーズ	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
予期しない妊娠／計画していない妊娠	5(0)	31.3%	1(0)	50.0%
若年(10 代)妊娠	2(1)	12.5%	0(0)	0.0%
お腹をたたく等の堕胎行為	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
妊娠届の未提出(母子健康手帳の未交付)	8(2)	50.0%	0(0)	0.0%
妊婦健康診査未受診	7(1)	43.8%	1(0)	50.0%
その他(妊娠期の母体側の問題)	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
遺棄	15(3)	93.8%	2(0)	100.0%
墜落分娩	3(1)	18.8%	0(0)	0.0%
飛び込み出産	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
帝王切開	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
医療機関からの連絡	1(0)	6.3%	0(0)	0.0%
その他(周産期の母体側の問題)	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
本児を妊娠時の特定妊婦としての支援	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%

オ　実父の状況

０日・０か月児事例における実父の状況について、０日児では、実父は「いる（別居）」が２人、「いる（同居か別居かは不明）」が１人、「不明」が 13 人であった。０か月児では、実父は「不明」が２人であった。

実父の年齢について、第１次報告から第 21 次報告までの総数でみると、０日・０か月児事例では実父の年齢が「不明」が 102 人と約６割を占めていた。

表 85　０日・０か月児事例における実父の状況（心中以外の虐待死）

区分	0日児			0か月児		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
いる(同居)	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
いる(別居)	2(0)	12.5%	66.7%	0(0)	0.0%	－
いる(同居か別居かは不明)	1(0)	6.3%	33.3%	0(0)	0.0%	－
いない	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
その他	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	－
不明	13(4)	81.3%		2(0)	100.0%	
計	16(4)	100.0%	－	2(0)	100.0%	－

表 86　０日・０か月児事例における実父の年齢（心中以外の虐待死）※

区分	第1次から第 20 次まで						第 21 次					
	0日児			0か月児			0日児			0か月児		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
19歳以下	13	9.2%	29.5%	2	6.7%	8.0%	0	0.0%	0.0%	0	－	－
20～24歳	8	5.7%	18.2%	3	10.0%	12.0%	1	33.3%	33.3%	0	－	－
25～29歳	3	2.1%	6.8%	2	6.7%	8.0%	0	0.0%	0.0%	0	－	－
30～34歳	4	2.8%	9.1%	5	16.7%	20.0%	0	0.0%	0.0%	0	－	－
35～39歳	3	2.1%	6.8%	6	20.0%	24.0%	0	0.0%	0.0%	0	－	－
40歳以上	13	9.2%	29.5%	7	23.3%	28.0%	2	66.7%	66.7%	0	－	－
不明	97	68.8%		5	16.7%		0	0.0%		0	－	
計	141	100.0%	―	30	100.0%	―	3	100.0%	―	0	－	―

区分	総数(第1次から第 21 次まで)								
	0日児			0か月児			計		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
19歳以下	13	9.0%	27.7%	2	6.7%	8.0%	15	8.6%	20.8%
20～24歳	9	6.3%	19.1%	3	10.0%	12.0%	12	6.9%	16.7%
25～29歳	3	2.1%	6.4%	2	6.7%	8.0%	5	2.9%	6.9%
30～34歳	4	2.8%	8.5%	5	16.7%	20.0%	9	5.2%	12.5%
35～39歳	3	2.1%	6.4%	6	20.0%	24.0%	9	5.2%	12.5%
40歳以上	15	10.4%	31.9%	7	23.3%	28.0%	22	12.6%	30.6%
不明	97	67.4%		5	16.7%		102	58.6%	
計	144	100.0%	―	30	100.0%	―	174	100.0%	―

※　実父の有無について「いない」「不明」と回答した事例を除く

⑩ 関係機関の関与状況

０日・０か月児事例における関係機関の関与状況について、０日児では「医療機関」が１人（6.3%）の関与があった。

表 87　０日・０か月児事例における関係機関の関与あり（心中以外の虐待死）

区分	0日児[16 人]		0か月児[2人]	
	人数	構成割合	人数	構成割合
児童相談所	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
市区町村（虐待対応担当部署）	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
福祉事務所	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
家庭児童相談室	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
民生児童委員	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
保健所	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
市区町村の母子保健担当部署（保健センター等）	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
養育機関・教育機関	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
医療機関	1(0)	6.3%	0(0)	0.0%
助産所※1	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
警察	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
女性相談支援センター※2	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%
配偶者暴力相談支援センター	0(0)	0.0%	0(0)	0.0%

※1　第 20 次報告の「助産師」より変更
※2　第 20 次報告の「婦人相談所」より名称変更

(10)きょうだい

①　きょうだいの状況

死亡したこどものきょうだいの状況について、心中以外の虐待死事例では、きょうだいが「なし（ひとりっ子)」が 22 人（有効割合 56.4%）と最も多く、次いで「１人（２人きょうだい)」が 11 人（同 28.2%）であった。また、心中による虐待死事例では、きょうだいが「なし（ひとりっ子)」が６人（同 37.5%）と最も多く、次いで「１人（２人きょうだい)」「３人（４人きょうだい)」がそれぞれ５人（同 31.3%）であった。

表 88　きょうだいの状況

区分	心中以外の虐待死			心中による虐待死		
	人数	構成割合	有効割合	人数	構成割合	有効割合
なし(ひとりっ子)	22(7)	45.8%	56.4%	6(0)	35.3%	37.5%
１人(２人きょうだい)	11(6)	22.9%	28.2%	5(0)	29.4%	31.3%
２人(３人きょうだい)	3(2)	6.3%	7.7%	0(0)	0.0%	0.0%
３人(４人きょうだい)	2(1)	4.2%	5.1%	5(0)	29.4%	31.3%
４人(５人きょうだい)	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
５人(６人きょうだい)	1(1)	2.1%	2.6%	0(0)	0.0%	0.0%
６人(７人きょうだい)	0(0)	0.0%	0.0%	0(0)	0.0%	0.0%
小計	39(17)	81.3%	100.0%	16(0)	94.1%	100.0%
不明	9(1)	18.8%		1(1)	5.9%	
計	48(18)	100.0%	－	17(1)	100.0%	－

(11)本児以外のこどもに対する虐待歴について

① 実母の本児以外のこどもに対する虐待歴について

実母の本児以外のこどもに対する当該事例発生以前の虐待歴の有無について、心中以外の虐待死事例では、「不明」が 17 人（38.6%）と最も多く、次いで「あり」が 10 人（22.7%）であった。心中による虐待死事例では、「なし」が７人（43.8%）と最も多く、次いで「不明」が６人（37.5%）であった。

実母の虐待を受けたこども（本児を除く）との関係において、心中以外の虐待死事例では「血縁関係あり」が 10 人（100.0%）であり、虐待の類型は「ネグレクト」が６人（60.0%）と最も多く、次いで「身体的虐待」が５人（50.0%）であった。

実母のこども（本児を除く）への虐待に対する児童相談所や虐待対応担当部署の関与の有無については、心中以外の虐待死事例では「関与あり」が８人（80.0%）、「関与なし」が２人（20.0%）で、本調査記入時点におけるこどもの状況は、「別居（一時保護施設入所等を含む）」が４人（40.0%）、「死亡」「同居」がそれぞれ３人（30.0%）であった。

表 89　実母の本児以外のこどもに対する当該事例発生以前の虐待歴の有無

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
あり	10(5)	22.7%	0(0)	0.0%
なし	8(3)	18.2%	7(0)	43.8%
不明	17(6)	38.6%	6(0)	37.5%
対象となるこどもがいない	9(4)	20.5%	3(0)	18.8%
計	44(18)	100.0%	16(0)	100.0%

表 90　実母の虐待を受けたこども（本児を除く）との関係（複数回答）

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
血縁関係あり	10(5)	100.0%	0(0)	－
血縁関係なし	0(0)	0.0%	0(0)	－
計	10(5)	100.0%	0(0)	－

表 91　実母のこども（本児を除く）に行われた虐待の類型（複数回答）

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
身体的虐待	5(3)	50.0%	0(0)	－
ネグレクト	6(3)	60.0%	0(0)	－
心理的虐待	3(2)	30.0%	0(0)	－
性的虐待	0(0)	0.0%	0(0)	－
不明	1(0)	10.0%	0(0)	－
計	10(5)	100.0%	0(0)	－

表 92　実母のこども（本児を除く）への虐待に対する児童相談所や虐待対応担当部署の関与の有無

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
関与あり	8(5)	80.0%	0(0)	－
関与なし	2(0)	20.0%	0(0)	－
計	10(5)	100.0%	0(0)	－

表 93　実母の虐待を受けたこども（本児を除く）の本調査記入時点における状況（複数回答）

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
死亡	3(1)	30.0%	0(0)	－
同居	3(2)	30.0%	0(0)	－
別居 （一時保護施設入所等を含む）	4(2)	40.0%	0(0)	－
計	10(5)	100.0%	0(0)	－

②　実父の本児以外のこどもに対する虐待歴について

実父の本児以外のこどもに対する当該事例発生以前の虐待歴の有無について、心中以外の虐待死事例では、「不明」が９人（36.0%）と最も多く、次いで「なし」が６人（24.0%）であった。心中による虐待死事例では、「不明」が６人（42.9%）と最も多く、次いで「なし」が５人（35.7%）であった。

実父の虐待を受けたこども（本児を除く）との関係において、心中以外の虐待死事例では「血縁関係あり」が４人（100.0%）、「血縁関係なし」は１人（25.0%）で、虐待の類型は「心理的虐待」が３人（75.0%）と最も多く、次いで「ネグレクト」が２人（50.0%）であった。

実父のこども（本児を除く）への虐待に対する児童相談所や虐待対応担当部署の関与の有無については、心中以外の虐待死事例では「関与あり」が４人（100.0%）と全体を占め、本調査記入時点におけるこどもの状況は、「同居」「別居（一時保護施設入所等を含む）」がそれぞれ２人（50.0%）であった。

表 94　実父の本児以外のこどもに対する当該事例発生以前の虐待歴の有無

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
あり	4(3)	16.0%	0(0)	0.0%
なし	6(4)	24.0%	5(0)	35.7%
不明	9(3)	36.0%	6(0)	42.9%
対象となるこどもがいない	6(2)	24.0%	3(0)	21.4%
計	25(12)	100.0%	14(0)	100.0%

表 95　実父の虐待を受けたこども（本児を除く）との関係（複数回答）

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
血縁関係あり	4(3)	100.0%	0(0)	―
血縁関係なし	1(1)	25.0%	0(0)	―
計	4(3)	100.0%	0(0)	―

表 96　実父のこども（本児を除く）に行われた虐待の類型（複数回答）

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
身体的虐待	1(1)	25.0%	0(0)	―
ネグレクト	2(1)	50.0%	0(0)	―
心理的虐待	3(3)	75.0%	0(0)	―
性的虐待	0(0)	0.0%	0(0)	―
不明	0(0)	0.0%	0(0)	―
計	4(3)	100.0%	0(0)	―

表 97　実父のこども（本児を除く）への虐待に対する児童相談所や虐待対応担当部署の関与の有無

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
関与あり	4(3)	100.0%	0(0)	―
関与なし	0(0)	0.0%	0(0)	―
計	4(3)	100.0%	0(0)	―

表 98　実父の虐待を受けたこども（本児を除く）の本調査記入時点における状況（複数回答）

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
死亡	0(0)	0.0%	0(0)	―
同居	2(2)	50.0%	0(0)	―
別居 （一時保護施設入所等を含む）	2(1)	50.0%	0(0)	―
計	4(3)	100.0%	0(0)	―

③ 実父母以外の主たる加害者の本児以外のこどもに対する虐待歴について

実父母以外の主たる加害者の本児以外のこどもに対する当該事例発生以前の虐待歴の有無について、心中以外の虐待死事例では、「なし」が２人（50.0%）、「あり」が１人（25.0%）であった。

実父母以外の虐待を受けたこども（本児を除く）との関係において、心中以外の虐待死事例では「血縁関係あり」「血縁関係なし」がともに１人（100.0%）で、虐待の類型は「身体的虐待」「心理的虐待」がそれぞれ１人（100.0%）であった。

実父母以外のこども（本児を除く）への虐待に対する児童相談所や虐待対応担当部署の関与の有無については、心中以外の虐待死事例では「不明」が１人（100.0%）で、本調査記入時点におけるこどもの状況は、「別居（一時保護施設入所等を含む）」が１人（100.0%）であった。

表 99　実父母以外の主たる加害者の本児以外のこどもに対する当該事例発生以前の虐待歴の有無

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
あり	1(0)	25.0%	0(0)	－
なし	2(0)	50.0%	0(0)	－
不明	0(0)	0.0%	0(0)	－
対象となるこどもがいない	1(1)	25.0%	0(0)	－
計	4(1)	100.0%	0(0)	－

表 100　実父母以外の主たる加害者の虐待を受けたこども（本児を除く）との関係（複数回答）

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
血縁関係あり	1(0)	100.0%	0(0)	－
血縁関係なし	1(0)	100.0%	0(0)	－
計	1(0)	100.0%	0(0)	－

表 101　実父母以外の主たる加害者のこども（本児を除く）に行われた虐待の類型（複数回答）

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
身体的虐待	1(0)	100.0%	0(0)	－
ネグレクト	0(0)	0.0%	0(0)	－
心理的虐待	1(0)	100.0%	0(0)	－
性的虐待	0(0)	0.0%	0(0)	－
不明	0(0)	0.0%	0(0)	－
計	1(0)	100.0%	0(0)	－

表 102　実父母以外の主たる加害者のこども（本児を除く）への虐待に対する児童相談所や虐待対応担当部署の関与の有無

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
関与あり	0(0)	0.0%	0(0)	―
関与なし	0(0)	0.0%	0(0)	―
不明	1(0)	100.0%	0(0)	―
計	1(0)	100.0%	0(0)	―

表 103　実父母以外の主たる加害者の虐待を受けたこども（本児を除く）の本調査記入時点における状況（複数回答）

区分	心中以外の虐待死		心中による虐待死	
	人数	構成割合	人数	構成割合
死亡	0(0)	0.0%	0(0)	―
同居	0(0)	0.0%	0(0)	―
別居 （一時保護施設入所等を含む）	1(0)	100.0%	0(0)	―
計	1(0)	100.0%	0(0)	―

(12)精神疾患のある養育者における事例について

① 精神疾患のある実母における事例の発生状況

本報告において、「精神疾患のある養育者」とは、医師による診断のある者とする（以下「精神疾患あり」という。）。一方、精神疾患に関する診断名がついていない養育者（その疑いや可能性のある場合を含む）については、「精神疾患のない養育者」（以下「精神疾患なし」という。）とし、それ以外の者は「不明」とする。

虐待の主たる加害者が実母であり、その実母が「精神疾患あり」であった（以下「精神疾患のある実母」という。）事例について、第５次報告から第21次報告までの総数では185人であった。そのうち、心中以外の虐待死事例は81人、心中による虐待死事例は104人であった。

一方、虐待の主たる加害者が実母であり、その実母が「精神疾患なし」であった事例については、第５次報告から第21次報告までの総数では399人であり、そのうち、心中以外の虐待死事例は278人、心中による虐待死事例は121人であった。

表104　虐待の主たる加害者が実母であった事例における精神疾患の有無とこどもの死亡人数　（単位：人）

区分		第5次から第20次まで	第21次	総数（第5次から第21次まで）
心中以外の虐待死	精神疾患あり	76(9)	5(4)	81(13)
	精神疾患なし	267(50)	11(6)	278(56)
	不明	235(35)	12(2)	247(37)
心中による虐待死	精神疾患あり	104(1)	0(0)	104(1)
	精神疾患なし	119(4)	2(0)	121(4)
	不明	165(0)	7(0)	172(0)
計		966(99)	37(12)	1,003(111)

② 精神疾患のある実母の診断名(疾病、傷害及び死因分類)

精神疾患のある実母の診断名（疾病、傷害及び死因分類）について、第５次報告から第 21 次報告までの総数をみると、心中以外の虐待死事例では、うつ病や双極性感情障害といった「気分［感情］障害」が 41 例と最も多く、心中による虐待死事例についても、「気分[感情]障害」が 54 例と最も多かった。

なお、「詳細不明の精神障害」は、精神科の受診歴はあるが、地方公共団体が正確な診断名を把握していないもの、検査中などの理由で確定診断がつけられる前に虐待死事例が発生したものであった。

表 105　精神疾患のある実母の診断名（疾病、傷害及び死因分類）[注6)]（複数回答）　（単位：例）

区分	総数（第5次から第 21 次まで）	
	心中以外の虐待死 [80 例]	心中による虐待死 [84 例]
症状性を含む器質性精神障害	1 (0)	0 (0)
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	2 (2)	0 (0)
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	24 (0)	16 (1)
気分[感情]障害	41 (7)	54 (1)
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	15 (3)	19 (0)
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	5 (1)	6 (0)
成人の人格及び行動の障害	4 (1)	3 (0)
知的障害＜精神発達遅滞＞	3 (0)	0 (0)
心理的発達の障害	2 (1)	1 (0)
小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害	2 (1)	0 (0)
詳細不明の精神障害	7 (0)	7 (0)

注6) 回答のあった診断名について、世界保健機関（WHO）により定められた「疾病及び関連保健問題の国際統計分類第 10 回改訂」（ICD－10）に基づいて我が国で使用する「疾病、傷害及び死因分類」をもとに分類した

(13)総括

対象事例について、こどもの死亡を防ぐために必要であったと考えられることや事例への援助における留意点等といった視点を踏まえて自由記載を求めた。

内容をみると、「積極的なかかわりの必要性」「他部署、関係機関との連携」「アセスメントのあり方」「事例を踏まえた対応の検討」「体制の整備や強化」に関する記載が多かった。

記載内容の一部抜粋

積極的なかかわりの必要性
○　養育者に対して、保育所利用、産科受診等必要なことを行うように伝えたことをもって指導終結としたが、それでは不十分だった。養育者が電話連絡に応じず行政との関わりに消極的であったからこそ、丁寧に確実につなげる必要があった。
○ 福祉サービスを求められない妊婦もいることから、アウトリーチ型の支援が必要である。
○　母子保健担当部署による妊婦面接段階での「気づき」を継続的に確認していく。さまざまな事業による妊婦との接点を活用し、早期の関係構築、困り感についてより踏み込んだ聞き取りを行う。電話連絡等に時間帯や方法など工夫を行い、期間を区切って、訪問等より強い接触を行う。
○　不安定な家庭環境にもかかわらず、支援機関からの関わりがなかった。第１子から本家庭への支援体制が構築されておれば、家庭環境の把握や必要な経済的支援事業の活用にもつながり、防ぐことができた可能性がある。
○　出生時訪問で、出生後すぐにうつぶせ寝の危険性や SIDS の心配についてなど、当面気を付けなければならないことの周知が行えていれば、当該事故につながらなかったかもしれない。
他部署、関係機関との連携
○　母子保健事業や保育園などの所属での状況などから，保護者の育児不安や負担感などを早い段階でキャッチし、早期に支援に繋いで見守りを行う対応が必要であると考える。
○ 児童相談所と子供家庭支援センターが並走していた期間中の連携が課題であったと考える。
○　児童相談所の基本的認識として、「養育相談」ケースであったこと、区から送致がなかったという枠組みに捉われたこと、対応した若手職員のさまざまな懸念を、組織として吸い上げることができなかった等が結果としてリスクを見逃すことにつながった。
○　予期しない妊娠の予防及び相談支援体制の充実強化と周知については引き続きの課題であり、関係機関との連携強化とともに民間機関とも連携し虐待の発生予防の取り組みを進めていきたい。
アセスメントのあり方
○　児童の身体に複数のアザが認められていたが、発達特性による自傷行為によるものと捉えて、保護者に医療受診を勧めることのみ優先して、具体的な関わりの助言をしてこなかった。地域で孤立している傾向があったが、親族の支援があるため、公的機関が積極的に関わっていなかった。
○　リスクアセスメントを適時行えていなかったが、転居など生活状況の変化があればその都度何度でも行うべきだった。
○　面前 DV について、育児を巡る口論からの暴力行為、母の自殺の仄めかしであったことを考えると、父母間の不和が身体的虐待に発展する可能性を踏まえたアセスメントを行う必要があったと思われる。
○　母は家庭訪問に応じてはいたが、自身の内面や悩みなどを表出することはなく、義務的、表面的な印象が強かった。母についてのアセスメントが不十分だった可能性がある。

○　父方祖父母の支援が予想より行われておらず、父方祖父母と父母の関係性のアセスメントが不十分であった可能性がある。
○　転入ケースに関しては、他市より情報提供がない場合でも、若年や精神の既往、自傷行為等の履歴がある場合は家庭が抱える課題についてリスクアセスメントを行いこまめな支援を行っていく必要がある。
○　事件発生前に家庭内事故が発生しているが、家庭内事故は、虐待の兆候ではないとしても、危険の認知度が低く再発が起こりやすいため、初回介入後も約1か月後には再訪問して指導項目が改善できたかの評価が必要であった。
○　母子保健で必要時対応していた事例。実母の病状、生活状況（同居者）など不明な点が多く、サポートの薄さなどがきちんとアセスメントされないまま支援されていた。
○　家庭内の状況はこどもの成長と共に変動するものであり、リスクを抱えるこどもに所属がない状況が継続すると、家族関係に変化が生じた際に察知できず、安全であるかの把握ができないまま重大な結果に至る可能性があるのではないかと考える。
事例を踏まえた対応の検討
○　関係機関の関わりのない突発的な心中事例であったがどこの支援機関が関わることができたかを検討する必要性はある。
○　不慮の事故と思われる部分が大きいが、うつぶせ寝に対する知識や寝返りができるようになった乳児への配慮など育児知識の伝授が必要であったかもしれない。
○　要保護対策地域協議会等を通じて、虐待の通告まではいかない親の状況であっても、子育てや自身の人間関係等で精神状態が心配な親に、紹介できる親支援の各種案内先について定期的に周知をしておくことは取り得る対策の一つであると思科する。
○　居住実態のある基礎自治体に住民票の転入手続きがなされておらず、加えて妊娠届の提出も無かったことから、市の虐待担当部署や母子保健部署が母子を把握することをはじめ、未然防止がきわめて困難であった事例と考える。困難を抱えた妊産婦のための相談窓口の普及、啓発と支援の担い手の開拓が必要と考える。
○　担当者の経験のみによらず、組織的にアセスメント・支援が行えるようにしていく。精神科との連携を強化し、必要時ご連絡をいただける関係を作っていく、産後うつの啓発等が挙げられている。
○　事実を重く受け止め、大型スーパーやコンビニ等の協力を得て、車内放置防止等の啓発を行った。ないという周知・啓発とともに、児童虐待の通告義務についての啓発を推進していく必要があると考えている。
体制の整備や強化
○　本死亡事例を受け、毎週の SV 以上のミーティングでケースの進捗状況等を全員で確認し、リスクや支援方法の見直しを適宜行うとともに、時間はかかっても援助方針会議で組織的に検討する形に改めることとした。
○　言葉を発する事ができない乳児期はそれだけでもリスクが高い。当事者からの発信では限界があるので、当該児童保護者を取り巻く近しい人たち（親族等）からアンケート等を通して無作為に情報が抽出できるような手だてがあると良い。
○　児童相談所、市町村児童福祉部門・母子保健部門等の支援機関のみならず、両親も妊娠に関する事実を承知していないなど、未然防止の対策が困難であったが、周囲の一層の注意や、相談を受けられる環境が整備されていれば防ぐ可能性もある。
○　正規職員の配置増、専門職の採用、外部 SV の採用など組織体制を整えること、進行管理体制の見直しや確立、関係部署関での情報共有の徹底、対応マニュアルの改訂や研修の充実、ランクに応じた点検頻度の設定や事前準備会議の開催による実務者会議の充実、個別ケース検討会議の開催の徹底といった取組が必要である。

○　墜落産事例の改善策については、中絶可能時期を過ぎれば出産に至ることの啓発、こども時代に相談して受け止めてもらった成功体験が持てるような支援、包括的性教育を学べる機会の創設、インターネットでの検索時に適切な行動につながる情報にアクセスできる仕組みづくり、性行為に伴う男性の責任について、男性側が責任ある行動を取れるための知識の獲得などの取り組みなどについてあがっている。
○　妊娠届が出されておらず、行政の関与がまったくなかった事例。実母が誰かに相談することができていたら、起こりえなかったと思われる。